予 算 決 算 常 任 委 員 会

平成 2 3 年 3 月 4 日

午前 9 時 0 0 分 開会

於 斑鳩町第一会議室

議 長

中 西 和 夫

委 員 長

嶋 田 善 行

副 委 員 長

伴 吉 晴

出 席 委 員

小 林 誠

浦 野 圭 司

里 川 宜 志 子

木 田 守 彦

理 事 者 出 席

町 長

小 城 利 重

副 町 長

池 田 善 紀

教 育 長

栗 本 裕 美

総 務 部 長

清 水 建 也

総 務 課 長

乾 善 亮

総 務 課 参 事

吉 田 昌 敬

企 画 財 政 課 長

西 川 肇

税 務 課 長

加 藤 惠 三

福 祉 課 長

佐 藤 滋 生

福 祉 課 参 事

清 水 修 一

国 保 医 療 課 長

面 卷 昭 男

国 保 医 療 課 参 事

寺 田 良 信

健 康 対 策 課 長

西 梶 浩 司

住 民 課 長

清 水 昭 雄

環 境 対 策 課 長

栗 本 公 生

都 市 建 設 部 長

藤 川 岳 志

建 設 課 長

今 西 弘 至

観 光 産 業 課 長

川 端 伸 和

都 市 整 備 課 長

加 藤 保 幸

都 市 整 備 課 参 事

井 上 貴 至

会 計 管 理 者

野 崎 一 也

会 計 室 長

山 崎 善 之

教 委 総 務 課 長

植 村 俊 彦

教 委 総 務 課 参 事

佃 田 眞 規

生 涯 学 習 課 長

黒 崎 益 範

上 下 水 道 部 長

谷 口 裕 司

上 水 道 課 長

清 水 孝 悦

下 水 道 課 長

上 田 俊 雄

議 会 事 務 局 職 員

議 会 事 務 局 長

藤 原 伸 宏

係 長

安 藤 容 子

(午前 9時00分 開会)

○嶋田委員長 皆さん、おはようございます。

全委員出席されておりますので、ただいまより予算決算常任委員会を開会いたします。

それでは、本日の会議を開きます。

初めに、町長のあいさつをお受けいたします。

小城町長。

○小城町長 皆さん、おはようございます。

25日から始まりました3月議会ですけれども、きょうは予算決算常任委員会の関係で付託案件としての議案第10号から議案の第16まで、職員の皆様方には熱心にご検討いただきまして、平成23年度斑鳩町一般会計予算77億7,000万という予算でございます。この中でも新しい事業等、事前委員会にもご報告申し上げましたように、きめ細かな形の23年度予算とっておりますけれども、皆様方の慎重審議をいただき、議案の第10号から議案の第16号まで、ひとつ慎重審議いただく中でご承認賜りますことを心からお願いいたしまして、あいさつとさせていただきます。

○嶋田委員長 それでは、本委員会の会議録署名委員を私より指名いたします。

署名委員に、木田委員、伴委員のお2人を指名いたします。両委員にはよろしく願いいたします。

本日と7日、8日の3日間で、付託を受けました議案のうち、一般会計及び各特別会計の平成23年度当初予算を審議してまいりたいと思います。そして、14日に改めて予算決算常任委員会を開催し、22年度の補正予算について審議してまいりたいと思いますので、委員皆様、また理事者の皆さんにはよろしく願いいたします。

それでは、本会議から付託を受けました議案第10号 平成23年度斑鳩町一般会計予算について、議案第11号 平成23年度斑鳩町国民健康保険事業特別会計予算について、議案第12号 平成23年度斑鳩町大字龍田財産区特別会計予算について、議案第13号 平成23年度斑鳩町公共下水道事業特別会計予算について、議案第14号 平成23年度斑鳩町介護保険事業特別会計予算について、議案第15号 平成23年度斑鳩町後期高齢者医療特別会計予算について、議案第16号 平成23年度斑鳩町水道事業会計予算について、以上7議案を一括上程し、議題といたします。

はじめに審査の方法についてお諮りいたします。

お手元にお配りしております資料「平成23年3月議会 予算決算常任委員会進行予

定表」をご覧いただきたいと思います。

最初に、一般会計予算総括についてと一般会計歳入全般について、総務部長から説明を受け、質疑を行うことといたします。

次に、一般会計歳出及び各特別会計について、各部ごとに審査を行っていただきますが、この審査については、一般会計の各款ごと、また各特別会計ごとにそれぞれ所管部長から説明を受けたのち、それぞれ質疑等の審査を行い、すべての質疑が終了後、各会計予算について表決を行うということで審査を進めてまいりたいと思いますが、これにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○嶋田委員長 異議なしと認めます。

それでは、進行予定表のとおり進めさせていただきます。

委員並びに理事者の皆さんには、議事進行につきまして、ご協力方、よろしく願いをいたします。なお、理事者の皆さんの説明につきましては、大変長時間にわたるものもございますので、説明は着席のまましていただいて結構です。

それでは、一般会計予算総括説明と歳入全般についての説明を求めます。

清水総務部長。

○清水総務部長 それでは、議案第10号 平成23年度斑鳩町一般会計予算について説明をさせていただきます。

まず、議案書を朗読させていただきます。

議案第10号

平成23年度斑鳩町一般会計予算について

標記について地方自治法第211条第1項の規定により、別紙のとおり提出し、議会の議決を求めます。

平成23年2月25日 提出

斑鳩町長 小城利重

それでは、失礼して座って説明させていただきます。本日、この説明をさせていただく際に、まず使わせていただく資料をあらかじめ提示させていただきます。

この平成23年度斑鳩町一般会計予算書と平成23年度予算の概要、まず最初、平成23年度斑鳩町一般会計予算書と平成23年度予算の概要という分と、もうひとつが平成23年度予算関係資料、この3つをもって説明をさせていただきますので、よろしく

お願い申し上げます。

まず初めに本町の財政関係につきまして若干説明させていただきます。

個人所得の減少や企業収益の悪化等によりまして、町政運営の基盤となる町税は昨年度より減少率は小さくなったものの、引き続き減少するという厳しい状況となっております。また、町税収入と並び財政運営の基盤となります地方交付税につきましては、国において別枠加算などによる確保が行われたことから、増額が期待できるものの、その他の交付金につきましては、一部にわずかな改善が見られますが、そのほとんどが引き続き減額する状況となっております。平成23年度において、世界経済の緩やかな回復が期待される中で、国においては予算・税制等による新成長戦略の本格実施等を通じて、雇用所得環境の改善が民間需要に波及する動きが徐々に高まり、景気はもちなおし、経済成長の好循環に向けた動きが進むと国のほうでは見込まれておりますが、海外景気が下ぶれするという懸念、あるいは為替市場の動向等によりまして、日本の努力にかかわらず、状況が悪化し不安定な状況が続くのではないかという懸念を抱かざるを得ません。

このような状況の中、当町の財政状況は現段階においては問題はないものの、少子・高齢化の進展による生産人口の減少などにより、根幹的な収入である町民税は減少することが予想され、厳しい状況が続くものと見込まれます。そのため、新たな視点、柔軟な発想で各施策の内容を点検し、実効性を最大限に高める取り組みや事務事業の選択と集中による見直しを行い、歳出の圧縮に努めたところであります。このように厳しい状況ではありますが、先般、策定いたしました第4次斑鳩町総合計画の目指すまちづくりの実現に向けまして、乳幼児から高齢者、障がいのある人など町民お一人おひとりの暮らしの安全と安心を守るため、将来の財政負担を勘案し、財政調整基金を取り崩すことなく、限られた財源を最大限効率的に活用し、真に必要な施策事業に配分をしたところでございます。

それでは、お配りをしております平成23年度一般会計予算書の第1ページをお開きいただきたいと思います。はじめに、予算総則につきまして朗読をさせていただきます。

平成23年度斑鳩町一般会計予算

平成23年度斑鳩町一般会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ77億7,000万円とする。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は「第1表 歳入歳出予算」

による。

(債務負担行為)

第2条 地方自治法第214条の規定により債務を負担する行為をすることができる事項、期間及び限度額は、「第2表 債務負担行為」による。

(地方債)

第3条 地方自治法第230条第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は「第3表 地方債」による。

(一時借入金)

第4条 地方自治法第235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は8億円と定める。

(歳出予算の流用)

第5条 地方自治法第220条第2項ただし書の規定により歳出予算の款項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

(1) 各項に計上した給料、職員手当及び共済費（賃金に係る共済費を除く。）に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

平成23年2月25日 提出

斑鳩町長 小城利重

次に、予算総則に定めました債務負担行及び地方債の内容につきまして、説明をさせていただきます。恐れ入りますが、予算書の9ページをお開きください。

9ページでございます。初めに債務負担行為についてであります。第2表 債務負担行為として、債務負担行為に係る事項、期間及び限度額について2つの事業を定めております。

はじめに、参加と協働のまちづくり推進事業業務委託契約では、債務負担行為の期間を平成24年4月1日から平成25年3月31日とし、限度額を136万円と定めております。第4次総合計画の重点施策であります「参加と協働のまちづくり」を進めるため、2か年で事業を実施することから債務負担行為を設定するものであります。

次に、可燃ごみ積み替え施設設計業務委託契約では、債務負担行為の期間を平成24年4月1日から平成25年3月31日とし、限度額を700万円と定めております。可燃ごみ積み替え施設につきましては、仮設及び本施設の設計業務を見込んでおりますが、

特に本施設の十分な検討期間が必要であることから、2か年で事業を実施することとし、債務負担行為を設定するものであります。

次のページの10ページをお願いします。地方債についてであります。第3表地方債として、起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法について定めております。はじめに、起債の方法についてであります。普通貸借または証券発行としております。また利率につきましては4.5%以内とし、利率見直し方式で借り入れる政府資金等につきましては、利率見直しを行った後においては、見直し後の利率としております。償還の方法につきましては、政府資金にあつては、その融資条件に基づき、銀行その他の場合には、その債権者と協定するものと定めております。また、据置期間及び償還期間の短縮、繰上償還、借換えができる旨も定めております。

次に、それぞれの町債の内容につきまして説明をさせていただきます。恐れ入ります、予算書の35ページをお開きください。

35ページの下段に町債とございますが、はじめに、第1目総務債では、(仮称)地域交流館建設事業債として(仮称)地域交流館建設にかかる町債4,240万円を計上しております。これにつきましては、一般単独事業債で起債充当率は75%となっておりますほか、奈良県市町村振興資金を充当残部分に活用しております。

次に、第2目農林水産業債では、土地改良事業債として、農道整備にかかる町債2,340万円を計上しております。これにつきましては、地方道路等整備事業債で起債充当率は70%となっておりますほか、奈良県市町村振興資金を充当残部分に活用しております。

次に、第3目土木債では、JR法隆寺駅周辺整備事業債として、JR法隆寺駅周辺道路の整備にかかる町債4,270万円を計上しております。これにつきましては、地方道路等整備事業債の通常事業分の範囲内として発行するものであり、元利償還金の交付税算入につきましては、元利償還金の30%が後年度、基準財政需要額に算入されることとなっております。

次に、第4目教育債では、学校教育施設等整備事業債として、幼稚園の保育室と遊戯室のエアコン整備にかかる町債1,260万円を計上しております。これにつきましては、学校教育施設等整備事業債で、起債充当率は75%となっております。また、中央公民館リニューアル事業債として、中央公民館リニューアル整備にかかる町債2,560万円を計上しております。これにつきましては、一般単独事業債で起債充当率は7

5%となっておりますほか、奈良県市町村振興資金を充当残部分に活用しております。

最後に、第5目臨時財政対策債では、引き続き、地方財源の不足に対処するため、地方財政法第5条の特例として発行される臨時財政対策債4億8,890万円を計上しています。この臨時財政対策債の元利償還相当額につきましては、その全額が後年度地方交付税の基準財政需要額に算入されることとなっております。

これら町債をあわせました総額は6億3,560万円となり、前年度の予算額と比較して1,150万円の減額となっております。

また、町債残高の見込みについてであります。予算書の146ページ、最終ページでございますが、146ページをお開きいただきたいと思います。

平成23年度末の一般会計における町債残高見込み額は、一番右上にございますように、101億8,954万8,000円となる見込みでありまして、上水道事業、公共下水道事業をあわせました残高合計が、一番右下にございますように、197億6,205万3,000円となる見込みであります。

続きまして、一般会計の歳出予算に係る総括の説明をさせていただきます。

歳出予算の各費目の詳細につきましては、後ほど教育長及び各担当部長から説明をさせていただきますので、私のほうからは、簡単に予算の目的別に沿いまして、前年度の予算額との比較、予算の財源内訳及びその主な取り組み、そして性質別の主な増減につきまして、説明をさせていただきます。

それでは、平成23年度斑鳩町一般会計予算書の13ページをお開きいただきたいと思います。13ページでございます。はじめに、予算額の増減とその財源内訳につきまして、説明をさせていただきます。

第1款議会費では1億3,968万8,000円を計上しております。前年度と比較して、4,101万8,000円、前年度と比較して41.6%の増となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。

次に、第2款総務費では9億952万9,000円を計上しております。前年度と比較して5,957万5,000円、7.0%の増となっております。予算の財源内訳は、国・県支出金で5,519万円、地方債で4,240万円、その他で3,304万3,000円、一般財源で7億7,889万6,000円となっております。

次に、第3款民生費では24億7,928万8,000円を計上しております。前年度と比較して1億746万1,000円、4.5%の増となっております。予算の財源内

訳は、国・県支出金で9億6,204万6,000円、その他で1億2,982万3,000円、一般財源で13億8,741万9,000円となっております。

次に、第4款衛生費では9億3,738万7,000円を計上しております。前年度と比較して6,394万円、7.3%の増となっております。予算の財源内訳は、国・県支出金で2,970万5,000円、その他で1億832万6,000円、一般財源で7億9,935万6,000円となっております。

次に、第5款農林水産業費では1億320万2,000円を計上しております。前年度と比較して839万9,000円、7.5%の減となっております。予算の財源内訳は、国・県支出金で525万5,000円、地方債で2,340万円、その他で1,364万6,000円、一般財源で6,090万1,000円となっております。

次に、第6款商工費では9,049万3,000円を計上しております。前年度と比較して163万1,000円、1.8%の増となっております。予算の財源内訳は、その他で1,057万8,000円、一般財源で7,991万5,000円となっております。

次に、第7款土木費では8億1,209万5,000円を計上しております。前年度と比較して3,422万6,000円、4.4%の増となっております。予算の財源内訳は、国・県支出金で5,534万8,000円、地方債で4,270万円、その他で522万3,000円、一般財源で7億882万4,000円となっております。

次に、第8款消防費では3億4,592万9,000円を計上しております。前年度と比較して1,984万8,000円、6.1%の増となっております。予算の財源内訳は、国・県支出金で363万9,000円、その他で11万8,000円、一般財源で3億4,217万2,000円となっております。

次に、第9款教育費では、8億8,152万円を計上しております。前年度と比較して6,139万8,000円、7.5%の増となっております。予算の財源内訳は、国・県支出金で1,752万6,000円、地方債で3,820万円、その他で4,342万2,000円、一般財源で7億8,237万2,000円となっております。

次に、第10款災害復旧費では、400万6,000円を計上しております。前年度と比較して400万円の増となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。

次に、第11款公債費では10億2,686万3,000円を計上しております。前年度と比較して1,530万2,000円、1.5%の増となっております。予算の財源内

訳は、国・県支出金で8,237万3,000円、その他で3,087万9,000円、一般財源で9億1,361万1,000円となっております。

最後に、第12款予備費では4,000万円を計上しております。前年度と比較して1,000万円、20.0%の減となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。

歳出合計といたしまして、77億7,000万円を計上しております。前年度と比較して3億9,000万円、5.3%の増となっております。

続きまして、平成23年度予算における特に主要な取り組みにつきまして説明をさせていただきます。恐れ入りますが、「平成23年度予算の概要」を見ていただきまして、予算の概要のまず15ページをお開きいただきたいと思います。

はじめに、総務費から説明をさせていただきますが、総務費では、15ページの上から3つ目の友好都市交流の推進で106万円、その下の地域集会所施設整備の支援で1,931万4,000円、その下の（仮称）地域交流館の整備で4,599万8,000円。

16ページに移っていただきまして、上から3つ目の参加と協働のまちづくりの推進で91万4,000円。一番下の広報紙の充実で622万4,000円。次に17ページ横でございますが、見ていただきまして、ホームページの充実で61万8,000円。

次に18ページのOA化の推進で4,654万7,000円。19ページにお移りいただきまして、一番上でございます職員研修の実施で125万1,000円。下から2つ目の行財政改革の推進で4万円。次に20ページでございます。20ページの一番上でございます。新公金収納方法の導入で1,530万円。

次に大きく飛びますけども、54ページでございます。54ページの一番上でございます住民基本台帳事務で5,411万7,000円。飛びますが、68ページにお移りいただきまして、友好都市交流の推進で62万2,000円などを計上しております。

次に民生費でございますが、34ページをお願いします。34ページの上から2つ目でございます。子ども手当の支給で6億1,996万4,000円。その下の子育てサポーターの支援で15万6,000円。その下の地域子育て支援センターの運営で489万9,000円。

次に37ページでございます。37ページの一番下でございます介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の見直しで193万4,000円。

次に、39ページでございます。上から3つ目でございますが、精神障害者小規模作

業所の運営支援で22万8,000円。次に41ページの上から2つ目の更正医療費の給付で1,603万円。その下の身体障害者（児）補装具の交付及び修理で580万円。その下の重度障害者（児）日常生活用具の給付で600万円。その一番下の重度心身障害者等福祉年金の支給で2,500万円。

次に43ページでございます。43ページの一番上の障害福祉計画等の策定で80万6,000円。一番下の障害者介護給付・訓練等給付費の支給で2億2,414万8,000円。

次に45ページでございます。一番上の国民健康保険事業への支援として2億775万1,000円。一番下の子ども医療費の助成で8,500万円。

次に46ページの上から3つ目の重度心身障害老人等医療費の助成で2,760万円などを計上しております。

次に衛生費でございます。恐れ入ります、また22ページにお戻りください。22ページの一番下でございます保健センターサポーターの養成で14万4,000円。

23ページにお移りいただきまして、一番上の健康づくりモデル事業の実施で50万円。下から2つ目にあります日本脳炎予防接種の実施で1,265万1,000円。24ページの一番下でございます細菌性髄膜炎予防接種（ヒブワクチン）の実施で717万9,000円。次に25ページの上から2つ目でございます。小児用肺炎球菌ワクチン予防接種の実施で1,023万1,000円。その下の子宮頸がんワクチン予防接種の実施で1,676万8,000円。

次に27ページに移っていただきまして、一番上にあります妊婦一般健康診査の実施で2,034万7,000円。その2つ下でございます乳幼児訪問の実施で67万7,000円。

29ページの上から3つ目でございますが、脳ドック健診の助成として227万5,000円。次に30ページに移っていただきまして、上から2段目でございますが、心の健康づくり事業の実施で44万8,000円。

次に、ちょっと飛びますが、47ページをお願いします。一番上でございます環境保全推進委員の充実で76万5,000円。上から2つ目の環境教室の充実で10万4,000円。次のページ48ページでございますが、その一番上の地球温暖化の防止で6万7,000円。次に50ページに移っていただきまして、一番上からバイオマス利活用の推進で2,474万2,000円。その下のゼロ・ウェイストの推進で89万6,000

0円。その下の衛生処理場の維持管理で4,416万6,000円。その下の最終処分場の維持管理で779万8,000円。次に51ページの上から2つ目でございます、可燃ごみ積み替え施設の整備で2,600万円。その下の鳩水園の維持管理で8,685万8,000円などを計上しております。

次に農林水産業費でございます。64ページをお願いします。一番上でございますが、農地基本台帳の整備で190万6,000円。その下の高安農道の整備で1,589万5,000円。その下の幸前農道の整備で1,200万円。その下の東里農道の整備で1,150万円などを計上しております。

次に商工費でございます。66ページをお願いします。商工会に対する支援で1,160万円。次の67ページに移っていただきまして、一番上の法隆寺iセンターの維持管理で2,122万2,000円。下から2つ目の斑鳩市の開催で100万円。その下の観光協会に対する支援で1,422万円などを計上しております。

次に土木費でございます。少し戻っていただきまして58ページをお願いします。

土木費では58ページの一番上でございます景観形成作物の栽培で293万9,000円。その下の景観計画の推進で2万5,000円。60ページにお移りいただきまして、一番上の交通量調査の実施で400万円。下から2つ目の道路の新設改良で、8,143万円。そのとなり、61ページの橋りょう環境の整備で165万円。

次のページの62ページでは一番下のJR法隆寺駅周辺整備の推進で1億219万3,000円。そのとなり63ページ一番上でございます水路の改修で1,520万円などを計上しております。

次に、消防費でございます。恐れ入ります13ページまで戻っていただきたいと思えます。消防費では、この13ページの一番上でございます西和消防組合との連携で2億8,767万6,000円。その下の消防団の運営で2,176万8,000円。その下の自衛消防団の支援で100万円。その下の消防車両の更新で1,459万8,000円。その下の災害物資の備蓄で522万5,000円などを計上しております。

次に教育費でございます。恐れ入ります、74ページをお願いいたします。74ページの一番上でございます町指定文化財候補の調査で126万円。その2つ下の史跡中宮寺跡シンポジウムの開催で19万7,000円。その下の文化財特別展の開催で50万円。その下の史跡中宮寺跡の整備で400万円。

75ページでございます、上の文化財活用センターの管理運営で3,034万円。そ

の下の文化財活用センターの充実で39万5,000円。

次のページ76ページに移っていただきまして、斑鳩の里文化芸術祭の開催で124万円。次にその隣77ページの上から二つ目でございます公民館教室の開催で187万3,000円。その下のひとつ飛んで下でございますマラソン大会の開催で200万円。その下の町民体育大会の開催で133万4,000円。次に78ページ、上から2つ目でございます公民館の充実で2,870万円。その下の図書館サービスの充実で1,017万3,000円。その下の町立図書館蔵書の充実で900万円。

次に80ページの下から2つ目でございます。小学校校舎の耐震補強で1,400万円。次に81ページの一番下でございます小学校講師の配置で2,709万9,000円。83ページでございます。上から2つ目でございますが、中学校講師の配置で1,436万2,000円。一番下の幼稚園保育室等エアコンの整備で2,536万8,000円。

次に86ページの一番下を書いてございますドッジボール大会の開催で10万円。

次の87ページでは学校・地域連携教育支援活動の推進で115万7,000円。次の88ページでは、一番上の小学校要保護・準要保護児童学用品費の援助で518万9,000円。その2つ下にあります中学校要保護・準要保護生徒学用品費の援助で793万5,000円。

次の89ページでは一番上でございます（仮称）斑鳩の飛鳥時代展の開催で、157万5,000円。その下の友好都市スポーツ交流の推進で、81万2,000円などを計上しております。

最後、災害復旧費でございますが、2枚めくっていただきますと、91ページでございます。91ページの1番目に書いてございますように、野外活動センターの災害復旧費で400万円を計上しております。

続きまして、歳出予算の性質別の状況について説明をさせていただきます。

恐れ入ります、次には資料「平成23年度予算関係の参考資料」をお願いします。

これの13ページをお開きいただきたいと思います。この13ページの一般会計性質別明細書を掲げておりますが、この表を用いまして説明をさせていただきます。この中で、一般会計で大きく増減のあったものを中心に、前年度予算の当初予算額との比較で説明をさせていただきます。

その表の一番上の段を見ていただきますと、一番左側には区分、その右の列には平成23年度の予算額の款別内訳、予算額構成比、その右の列には前年度との比較となって

おります。

はじめに、上から4行目を見ていただきますと、斜め文字で義務的経費とございますが、この予算額が36億1,133万3,000円で、前年度当初予算額と比較いたしますと1億1,833万2,000円、3.4%の増となっております。

人件費では、議員皆様の共済費が地方議会議員年金制度の廃止に伴い、大幅な増となったわけですが、国勢調査の終了に伴いまして、調査員の報酬の減、職員総数の抑制、これは町長・副町長の給料及び部課長級の管理職手当の抑制等を引き続き実施することなどにより対前年度比170万1,000円、0.1%の減となっております。

扶助費では、3歳未満の子どもに前年度から比べますと、ひとり当たり7,000円の増となります子ども手当、障害福祉に係る扶助費や子ども医療費助成金などが増加したことから、対前年度比1億473万2,000円、10.6%の大幅な増となっております。

公債費では、平成20年度に発行いたしましたJR法隆寺駅周辺整備事業と生き生きプラザ斑鳩建設事業の元利償還が開始となったこと等によりまして、対前年度比1,530万2,000円、1.5%の増となっております。

次に、中段ぐらいにございます経常的経費でございますが、予算額36億2,050万2,000円となっております。前年度と比較して1億107万6,000円、2.9%の増となっております。

物件費といたしましては、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチンの予防接種費用、コンビニ収納等新公費収納方法の導入費用あるいは浸水対策にかかる調査費用などの増によりまして、対前年度比1億205万円、6.2%の増となっております。

維持補修費では、衛生処理場や公園などに係る補修費の減によりまして、対前年度比4,898万7,000円、31.2%の減となっております。

補助費等では、後期高齢者医療療養給付費負担金などの増によりまして、対前年度比4,058万1,000円、5.0%の増となっております。

繰出金につきましては、老人保健特別会計への繰り出しがなくなったものの、公共下水道事業費の増加に伴いまして、公共下水道事業特別会計への繰り出しが増となったことなどによりまして対前年度比743万2,000円、0.8%の増となっております。

下から4行目には投資的経費と書いてございます、この予算額が4億6,326万6,

000円となっております。前年度と比較して2億64万6,000円、76.4%の増となっております。このうち、普通建設事業費は（仮称）地域交流館の整備、第3分団消防ポンプ車の更新、可燃ごみの積み替え施設の整備、あるいは道路新設改良事業、浸水対策、幼稚園保育室及び遊戯室へのエアコンの整備、中央公民館のリニューアルなどを実施することから、対前年度比1億9,664万6,000円、74.9%の増となっております。

災害復旧事業費では、野外活動センター進入路の復旧工事を施工することから400万円の増となっております。なお、例年は農林水産業施設災害復旧費等、各科目ごとに1,000円を名目的に措置しておりますことから大幅な増となったものであります。

以上、歳出予算に係る総括説明とさせていただきます。

続きまして、歳入予算の内容でございます。

一般会計予算書に戻っていただきまして、この11ページをお開きいただきたいと思います。一般会計予算書の11ページでございます。

はじめに、第1款町税についてであります。新年度では28億7,850万円を計上しております。前年度の予算額と比較して2,720万円、0.9%の減となっております。斑鳩町をとりまく環境につきましては、冒頭にも申し上げましたが、個人所得の減少や企業収益の悪化等により、昨年度より減少率は小さくはなっておりますものの、引き続き減収となる厳しい状況となっております。まず、町民税につきましては、国においては地方全体の増収を見込んでおられるところでございますが、当町におきましては、個人町民税、法人町民税ともにまだ回復の兆しが見えておらず、大きな増収が期待できない状況となっております。固定資産税につきましても、家屋、償却資産について若干の増収を見込めるものの、引き続き地価の下落により土地については減収となっており、トータルとしては大きな増収は期待できない状況となっております。また、たばこ税につきましては、健康意識の高まりや昨年度の税率改正などにより、今後も増収が期待できない状況となっております。

それでは、税目ごとの説明をさせていただきます。一般会計予算書の14ページをお開きいただきたいと思います。

第1項町民税からでございますが、景気は緩やかに回復しているといわれているものの、各個人への還元が進んでいないことによりまして、引き続き所得の減少が生じていることから前年度の予算額と比較して3,580万円、2.4%減の14億3,790万

円の計上となっております。

次に第2項固定資産税では、地価の下落が続いているものの大規模店舗の出店及び設備投資の増などによりまして、家屋と償却資産では増となる見込みでございます。前年度の予算額と比較いたしまして1,830万円、1.6%増の11億6,200万円を計上しております。

次に、15ページの第3項軽自動車税では、普通自動車からの軽自動車への買い換えにともないます需要の伸びや、登録台数の推移等から、前年度の予算額と比較して70万円、2.0%増の3,640万円を計上しております。

次に、第4項たばこ税では、喫煙人口の減少や平成22年10月の税率改正によるたばこ消費量の減少によりまして、前年度の予算額と比較して1,180万円、9.3%減の1億1,550万円を計上しております。

次に、第5項都市計画税では、固定資産税と同様に地価の下落があるものの家屋で増となったことによりまして、前年度の予算額と比較して140万円、1.1%増の1億2,670万円を計上しております。

続きまして16ページでございます。16ページの第2款地方譲与税についてであります。新年度では、地方譲与税全体で6,020万円を計上しております。前年度の予算額と比較して80万円、1.3%の減となっております。第1項地方揮発油譲与税では1,710万円、第2項自動車重量譲与税で4,310万円をそれぞれ計上しております。これら譲与税につきましては、国の地方財政見通し等をもとに積算したものであります。以下、各種交付金につきましても同様でございますので、あらかじめご了承を賜りたいと思います。

第3款利子割交付金についてであります。新年度では1,300万円を計上しております。前年度の予算額と比較して140万円、9.7%の減となっております。

次に、17ページでございます。第4款配当割交付金につきましては、新年度では1,170万円を計上しております。前年度の予算額と比較して150万円、14.7%の増となっております。

次に、第5款株式等譲渡所得割交付金につきましては、新年度では410万円を計上しております。前年度の予算額と比較して130万円、46.4%の増となっております。次に、第6款地方消費税交付金についてであります。新年度では1億7,510万円を計上しております。前年度の予算額と比較しますと60万円、0.3%の減とな

っております。

続きまして18ページの第7款ゴルフ場利用税交付金につきましては、新年度では2,650万円を計上しております。前年度の予算額と比較いたしますと220万円、7.7%の減となっております。次に、第8款自動車取得税交付金につきましては、新年度では1,590万円を計上しております。前年度の予算額と比較しますと640万円、28.7%の減となっております。

次に、18ページから19ページの第9款地方特例交付金についてであります。新年度では、地方特例交付金全体で4,380万円を計上しております。前年度の予算額と比較しますと440万円、9.1%の減となっております。

第1項地方特例交付金では、児童手当及び子ども手当特例交付金1,650万円、住宅借入金等特別税額控除による個人住民税の減収を補てんするための減収補てん特例交付金で2,040万円、自動車取得税の時限的負担軽減措置による減収を補てんするための減収補てん特例交付金690万円を計上しております。

続きまして、第10款地方交付税についてであります。新年度では20億4,450万円を計上しております。前年度の予算額と比較して3億70万円、17.2%の増となっております。地方交付税では、国において地域主権改革に沿った財源の充実を図るため、また地域活性化・雇用・子育て施策等に継続して取り組めるよう、今年度におきましても特別枠の財源が措置されたことから、対前年度比3億4,070万円、23.3%増の18億450万円を計上しております。特別交付税では、地方交付税の算定方法の簡素化、透明化の取り組みの一環といたしまして交付税総額における特別交付税の割合を6%から4%に引き下げ、普通交付税に移行させることになったことにより減となっております。なお、実施は2年間をかけて段階的に引き下げることでされております。23年度では6%から5%に、平成24年度では5%から4%にするということでございます。これを受けまして、本年度の特別交付税は、対前年度比4,000万円、14.3%減の2億4,000万円を計上しております。

次に第11款交通安全対策特別交付金についてであります。前年度と同額の400万円を計上しております。

20ページをお願いいたします。第12款分担金及び負担金についてであります。新年度では、分担金及び負担金全体で1億1,743万2,000円を計上しております。前年度の予算額と比較いたしますと689万3,000円、6.2%の増となっております。

ます。第1項分担金では、農林水産業費分担金として、農道整備等の土地改良事業に係る分担金1,347万8,000円を計上しております。第2項負担金では、民生費負担金として1億395万4,000円を計上しております。保育園保育料9,511万円、地域活動支援センター他市町村入所負担金625万円等となっております。

次に、21ページの第13款使用料及び手数料についてであります。新年度では、使用料及び手数料全体で2億5,725万5,000円を計上しております。前年度の予算額と比較いたしますと2,075万円8,000円、8.8%の増となっております。

21ページから22ページにかけての第1項使用料では、各公共施設の使用料、幼稚園の保育料として総額で1億4,821万5,000円を計上しております。

22ページから23ページの第2項手数料では、ごみ処理・し尿処理手数料をはじめ、各種証明手数料など総額で1億904万円を計上いたしております。

次に、24ページからの第14款国庫支出金についてであります。新年度では、国庫支出金全体で8億1,318万5,000円を計上しております。前年度と比較いたしますと7,657万円、10.4%の増となっております。

第1項国庫負担金では6億4,181万7,000円を計上しております。児童手当に係る各負担金が減となるものの、自立支援給付費に係る障害福祉費負担金が事業費の増により、また子ども手当交付金が3歳未満の子ども手当の増により増額をされることから、対前年度比8,081万円、14.4%の大幅な増となっております。

24ページから25ページの第2項国庫補助金では、1億6,336万1,000円を計上しております。幼稚園エアコン整備に対応するための学校施設環境改善交付金などが増となりますものの、JR法隆寺駅周辺整備に活用しております社会資本整備総合交付金などが減となることから、対前年度比168万4,000円、1.0%の減となっております。同じく第3項国庫委託金でございますが、800万7,000円を計上しております。子ども手当事務取扱交付金の制度導入初期費用が減となったことによりまして、対前年度では255万6,000円、24.2%の減となっております。

次に、26ページからの第15款県支出金についてであります。新年度では、県支出金全体で3億9,789万7,000円を計上しております。前年度の予算額と比較いたしますと、2,134万5,000円、5.7%の増となっております。

第1項県負担金では、2億7,109万1,000円を計上しております。国庫負担金と同様に児童手当に係る各負担金が減となるものの、自立支援給付に係る障害福祉費負

担金が事業費の増により、また子ども手当交付金が3歳未満の子ども手当増により増額されることから、対前年度比として118万円、0.4%の増となっております。

26ページから28ページにかけましての第2項県補助金では1億1,571万1,000円を計上しております。子育て支援などに対応する安心こども基金特別対策事業費補助金、子宮頸がんワクチン予防接種などに対応する子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業補助金、第3分団ポンプ車の更新に対応する市町村消防施設整備費補助金などが増となりますことから3,323万6,000円、40.3%の増となっております。

28ページから29ページにかけましての第3項県委託金では1,109万5,000円を計上しております。県知事及び県議会議員選挙の執行に伴います選挙費委託金が増となりますものの、国勢調査の実施に伴う国勢調査事務市町村交付金や参議院議員選挙の執行に係る選挙費委託金が減となることによりまして1,307万1,000円、54.1%の減となっております。

次に、第16款財産収入についてであります。新年度では、財産収入全体で461万9,000円を計上しております。前年度の予算額と比較して54万4,000円の増となっております。第1項財産運用収入では、普通財産の貸し付けに伴う使用料と各基金に係る利子として361万9,000円を計上しております。30ページでございますが、第2項財産売払収入では、普通財産売払収入として100万円を計上しております。

次に、第17款寄附金についてであります。新年度では、指定寄附金といたしまして75万円を計上しております。

次に、第18款繰入金についてであります。新年度では8,000万円を計上しております。前年度の予算額と比較しますと、185万5,000円の減となっております。平成18年度に発行いたしました斑鳩町いきいきの里債が満期一括償還を迎えますことから、計画的に積み立てておりました償還財源8,000万円を繰り入れるものであります。また、住民の皆様の暮らしを守ることを第一に、将来の子どもたちの財政負担も勘案し、昨年度に引き続き財政調整基金を取り崩すことなく予算を編成をしております。

次に、31ページ、第19款繰越金についてであります。平成22年度の予算の執行を見る中で、新年度では1億5,000万円を計上しております。

次に、第20款諸収入であります。新年度では、諸収入全体で3,596万2,000円を計上しております。前年度の予算額と比較して350万5,000円、8.9%の減となっております。第1項延滞金加算金及び過料では、町税の滞納に係る延滞金21

0万円を計上しております。第2項町預金利子では、預金利子2万円を計上しております。第3項貸付金元利収入では、福祉医療費資金貸付金に係る元金収入68万円を計上しております。

次に、32ページの第4項受託事業収入であります。新年度では236万1,000円を計上しております。収入といたしましては、広域保育受託料として36万1,000円、発掘調査受託料として200万円を計上いたしております。

32ページから35ページの第5項雑入でございますが、雑入全体で3,080万1,000円を計上しております。次に、35ページでございます。35ページの第21款町債につきましては、先ほどご説明させていただきましたとおりでありますので、ご説明は省略をさせていただきます。

なお、昨年の予算決算常任委員会におきましてご要望のございました予算の財源内訳につきましては、平成23年度予算関係資料がございますが、これの40ページから63ページにわたりまして、平成23年度一般会計歳出事業一覧表を作成いたしております。そちらにおきまして各事業を網羅させていただいております。

その財源内訳として国庫支出金、県支出金、地方債、その他及び一般財源の額を記載しておりますのでご参照ください。

また、平成23年度予算の概要でございますが、これの最終のページには総合計画の最終年度でございます平成32年度までの本町の財政見通しを添付しておりますので、これもご参照いただけたらと思います。

以上をもちまして、一般会計予算の総括説明とさせていただきます。

よろしくご審議を賜りますようお願いいたします。

○嶋田委員長 一般会計予算についての総括説明と歳入全般についての説明が終わりましたので、これに対する質疑をお受けいたしますが、委員の皆さんには、質疑答弁がスムーズに行えますよう、ご質問の際には、予算書並びに関係資料等の資料名、資料番号、ページ数などもお示しいただきましてご質問していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、質疑をお受けいたします。 浦野委員。

○浦野委員 予算書の13ページ、歳出で第10款の災害復旧費でちょっと質問なんですけども。財源の内訳が一般財源ということになってるんですが、このことはわかるんですけども、例えば、緊急に大きな地震とかがあったときに、国とか県とかいう財源はな

いんでしょうか。ちょっとこの際聞いておきたいと思います。

○嶋田委員長 清水総務部長。

○清水総務部長 この災害復旧費でございますが、さっきも若干ふれましたけども、この項目ごとに毎年名目予算として1,000円ずつ積みましていただいております。ことしにつきましては、400万円別に白石畑の進入路、復旧工事という形でやらせてもらっているわけでございますけども、この400万円につきましては一般財源で対応していくしかない、いろいろ補助金等を調べたところ、400万円につきましては、一般財源で対応させていただくと。

それと緊急な、例えば地震でありますとか、そういった災害にあった場合は、そういう災害認定が受けられますと国からの補助があります。その場合は補正で対応させていただくという形になってございますので、ご理解を賜りたいと思います。

○嶋田委員長 浦野委員。

○浦野委員 その辺の、国からの受けられる割合とかは決まってないんでしょうか。ケースバイケースなんですか。

○嶋田委員長 清水総務部長。

○清水総務部長 災害復旧費に当たりましてですね、その災害認定の必要経費というのは当然出てございます。その災害復旧全体の金額によって、その町が持ち出す金額と補助率の最大どのくらいなのかということについてはそこで決まってこようかとは思いますが。ほぼ全額ということでは、また後ほど説明しますが、災害認定されますと、そのほぼ全額について一応、交付されるというふうには考えているところでございます。

○嶋田委員長 池田副町長。

○池田副町長 いわゆる激甚災害がございまして。激甚災害に指定、例えば最近でしたら河川が氾濫してございましたね。そういう場合につきましては、国の補助金が出て、残りについてはもう起債、有利な起債ということで、起債を起こせまして、一般財源については。その分については、当然、交付税算入100%合算にされるということになってまいります。ただ、よく災害起きても全部が全部それでいけるのかというたらそうじゃないんですわ。その災害の指定区域が、例えば神戸の大震災でしたら、道路復旧、また線路の復旧等々はできますけども、あとの街路復旧、区画整理等をやっていかれましたらね、それについては、もうそれ以上の分がございまして、それについては当然、交付税算入されない起債とか当然ございまして、その償還がどんどん発生してまいり

ますので、財政は厳しくなる場合もあるということでございます。

○嶋田委員長 浦野委員。

○浦野委員 わかりました。

予算概要書の15ページ、一番下の地域交流館の整備ということで、私、この点は一般質問でもさせていただいたのですが、本年度4,600万近い予算を組まれているということなんですけども。これは、以前に今後10年間にわたり斑鳩町内4か所に地域交流館を計画されていると聞きますけども、本年度はこれ4,600万という予算なんですけども。例えばですね、1か所当たり土地の購入費がいくら、建物の建設費がいくらで4か所終わった段階で、総額いくらというふうな概略はお持ちだと思んですけど、この際、ちょっと聞いておきたいと思うんですけど。

○嶋田委員長 清水総務部長。

○清水総務部長 平成23年度、24年度につきましては、この前、一般質問でもお答えをさせていただきましたように、法隆寺地区で建てさせていただくという計画でございます。その予算規模といいますか、土地の広さでありますとか、建物の規模、どのぐらいなのかということにつきましては、今、法隆寺地区では一定の規模の土地を見つけていただきまして、それに対して、風致地区ということもございまして、いろいろなそういうことを勘案しながら、これから建物の規模が決まってくるのかと考えておりますけども、その他の地域につきましてはですね、その候補地となる土地の面積でありますとか、立地の場所でありますとかということによって、若干状況は違ってくるのかというふうに考えております。そういったことも総合に勘案しながら、あと3つの交流館については、そのつど、議会の皆様にも相談を申し上げながら進めてまいりたいというふうに考えております。

なお、今、これの一番、財政の見通しでございますけども、この見通しの欄外、下のほうにございますけども、(仮称)、この主な大型建設事業をあげてございます。その一番下に書いてございますように、一応今考えておりますのは、目安といたしましては、全体で約6億円というふうに考えてございます。以上でございます。

○嶋田委員長 浦野委員。

○浦野委員 6億円と今、聞きまして、かなりの高額のまた出費になるなど。また起債返済をしていかないといけないなと思うんですけども。例えば、住民側に対して、広報等で寄付金を募るとか、またできた暁には、その交流館の管理運営を住民のボランティア

団体に任すとかいうお考えはないのでしょうか。

○嶋田委員長 清水総務部長。

○清水総務部長 この地域交流館につきましては、前も説明をいろいろさせていただきま
すように、できた暁の管理につきましては地元の方々でしていただくということがひと
つの条件といたしますか、そうしたことでお願いしているところでございます。

この地域交流館について別途寄付を募るということについては、今現在、町のほうで
は考えておりませんが、当然、そうした住民の方々が自分たちでそういった施設を盛り
上げていこうという考えの方で寄付をしていただくこともあろうかと考えています。

別途また交流館ができてから、地元の方々がそういう維持管理をお願いするわけで
ございますけども、その中でも、やっぱりお金だけじゃなくて、人的な活動についても、
当然していただくことによって、地域の活性化等にもつながっていくのかなというふう
には考えております。

○嶋田委員長 浦野委員。

○浦野委員 今の「予算の概要」の63ページの一番上の水路の改修1,520万につい
てのもうちょっと詳しい説明をお願いします。

○嶋田委員長 今、水路の改修等については、建設の関係になってくるから、ここ詳しい
というのは、ちょっと今。建設部所管のときにお願ひできますか。

○浦野委員 はい。

○嶋田委員長 ほかありますか。 伴委員。

○伴委員 予算書の21ページの真ん中あたりのふれあい交流センター使用料なんです
が、前年度に比べて約100万円弱予算が少なくなっていると。このあたり、やはりこれな
ぜこういう、ちょっと入館者といたしますか、それが少なくなっているようなそうい
う兆候が見えるんですか。ちょっとそのあたりお願いしたいんですが。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 入館者数自体が減ってくるということではなくて、これは以前からの傾
向なんですけども、町外と町内の入場者の割合が町内の方が今、平成21年度でも8
5%ぐらい町内だということです。その中で、ふれあいの高齢者の生きがいづくりとい
うことで、無料券のほうも出しておりますので、そういうことで結果的に収入のほう
が若干減っているということになっています。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 今のお答えですと、結局、無料券の配布が拡大した、もしくは町内の方が来られる比率がふえた、このあたりで少なくされているということですね。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 そのとおりでございます。例えば、町内の方で有料で入っておられる方も町内と町外で料金で差をつけておりますので、そういうことも含めて、減っているということでございます。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 すいません。もうひとつお願いします。

予算書の32ページの受託事業収入の中の広域保育受託料、これですねけど、これも前年度は380万ほどつけていただいたと思うが、これ36万1,000円とこうなっている。ちょっとの理由をお願いしたいのですが。

○嶋田委員長 清水福祉課参事。

○清水福祉課参事 広域受託ということで、他市町村から斑鳩町へ受託を受けているというので、これ計算します。前年度は受託の保育所の申し込みのときに他市町村から当初4人こられました。今回は1人ということで、その分を予算計上させていただいて、こっだけ減っておるということでございます。

○嶋田委員長 よろしいですか。ほかにございませんか。 木田委員。

○木田委員 この大体予算を組まはったんはね、今年の11月ぐらいからだと思うのやけども、今現在ですね、世界情勢から見てもリビアとかでああいうことになっておったらですね、ガソリンというのですか、それが高騰してくるといふうに。だから、電気代とか光熱水費なんか、物すごく違ってくると思いますけれど、その点について今現在、まだこれからもっと上がってくると思います。だいたい輸入原油っていうのですか、それはその当時やったら81ガロン、80ドル台やったと思いましたが、今もう100ドル超えているような状況の中でね、2か月ぐらい、5月ぐらいになったらまた上がってくるのと違うのかなと思いますねけど、そういう計算というんですか、それは突発的な何かもわからないのやけども、そういうことを見込んでもこの大体予算でいけるというふうに見ておいてよろしいのですかな。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 今、質問がございましたように、原油等の今の情勢では値上がりが出てきております。ただ、予算策定時点ではそういうこともなかったことで、その辺の

見込みは現の予算では入っておらないことは事実でございます。もし、そういうことで原油等が高騰して、値上がり等出てきた場合には、その補正対応なり、その分の予算を計上いたしまして、対応してまいりたいと思います。

○嶋田委員長 木田委員。

○木田委員 それで、その予算で仮に年間どのぐらい上がるのかということのをクーラーとかもつけてあげられるということでも、電氣代もこれもう上がるの確実にわかってますわな、ガス代とか。だから、そういうふうな何が突発的に出てきて何したら、ある程度予算を緊縮財政でずっと締めてても、そういう突発的な何が出てきて膨らんでいったら、やっぱりだんだんいろいろな面に逼迫してくると思いますねけど、そういう考え方というのか、そういうのは考えて、これ予算を組んでいておられるのか。そういうことも予想できないこともわからないねけど、一応、やっぱり企業なんかだったら、そういうことまで考えてやっぱりやっていると思いますのでね、やっぱり世界情勢とか一番大事やからね。だから、これ、毎週何円とか何十銭とかいう感覚で上がってきているからでんな、だから、これがもう5月、6月ぐらいになってきたら、物すごく150円台以上になってくるということになったら、かなりの何に変わってくると思いますのやけども、その準備を今からしておいてもらいたいなというふうに思いますのやけど。その点。

○嶋田委員長 小城町長。

○小城町長 今、西川課長が申しあげましたように、情勢というのはなかなかわかりにくいものですから、特にやっぱり政府、国としても当然この問題についてはですね、道路特定財源を一般財源にした、この中で150何ぼというレベルが上がった場合はどうしていくかという対応をそのときにしていますけれども、今の政府がそういう対応が果たしてできるのか。そういうことも十分にらんでいかんと、やっぱり今我々の市町村がそういうことですね、企業もそうだと思います、企業も円高、円安、それはもう当然に大きな落差がある。今、輸出している関係はとにかく。だから、日本の国は結局、外国で会社を起こしてやっていかなかったらいけないということでどんどん海外にいくと。すると、法人税が入ってこないということで下がっていくと、ということで反対やと。いろんないきさつがありますから、その点については、今、西川課長が申しあげたように、やっぱりこの情勢がいかんという情勢をさして行く中で、やはりもし高騰した場合は、やはり、皆様方にまた議会のほうで補正をお願いしてですね、やらざるを得ないと思っ

てます。

○嶋田委員長 木田委員。

○木田委員 それでね、清水部長が説明に入らはるときにでんな、社会情勢もよくなってきたと、好転してきたというふうな言い方しておられたからね、やっぱりこれはちょっとその点が違うのではないかなというふうな思いで申し上げておるのであってね。やっぱりこれはもうちゃんとした何で、心構えを持ってでんな、やっていただきたいなど、今後でっせ。もう今これ、予算を組んである以上はしょうがないですよんか。あと補正で組んだらよろしいけどね。だから、その点について、やっぱり慎重にやっていただきたいなと思います。

○嶋田委員長 ほかにございませんか。 里川委員。

○里川委員 ちょっといくつかお尋ねしたいんですけれども。提出議案説明にもありましたし、今、部長のほうの説明にもありました地方交付税の算定方法が変わったということです。それで、今年度が特別交付税が6%から5%になったということで、予算書の19ページを見ましたら、そういう点で若干、特別交付税が減っているなというふうには思っているんですが。これ、単純に1%減ったのが、この4,000万というふうには捉えていいものかどうかというのは、私ちょっとよくわからないんですけれども。このもともと普通交付税と特別交付税では算定方法が違うのではないかなということを私も思っておったんですが、つい普通交付税で、基準財政需要額で計算したものでいくんですけれども、特別交付税というのは、基本的にどういう係数をもって、どういう交付のされ方をする、そして、この特別交付税が割合が下がることについては、斑鳩町にとってはそれは影響のあることなのかどうか。プラスになることなのか、マイナスになって響くのかとか、その辺が私自身はこれを見てて、ちょっとよくわからなかったので、それは教えていただきたいなというふうに思います。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 普通交付税の算定につきまして、今、委員さんのほうからありましたように、国税の95%が普通交付税、あとの5%が特別交付税ということです。22年度までは、94%でした。今回95%になるということでございます。特別交付税の場合が、今まで6%のものが23年度に5%になる、1%落ちるということでございます。普通交付税の算定につきましては、基準財政需要額と基準財政収入額の差をもちまして、交付されるというものでございまして、特別交付税の場合は、その1%の分は全

国一律に下がるということでございまして、その1%分が今、申されました4,000万円という金額になってくるということでございます。

○嶋田委員長 池田副町長。

○池田副町長 特別交付税につきましては、普通交付税のような基準額があつて、率をかけて、またやっついてということじゃなくて、各市町村の状況に応じて、例えば環境にこれだけやっておりますと、子育てにこれだけやっておりますと。また、前年度に災害が多くありましたよとか、ありましたね。雪が多く降ったと、積雪があつたと。こういう具合に、こんなんを積み重ねていって各県でされます。例えば奈良県の市町村の特別交付税はこれだけですと枠が来ますんで、それでまたいま申し上げたものを算定してやっついていくと。斑鳩でしたら、また風致、歴風がありますので、古都法の関係、それらも当然必要な経費が要りますよとなつてまいります。これで算定されますので、きちりしたこれこれ掛ける、これ引いて何ぼというのはございませぬので、今言うたやつを総合的に県で判断されて、額を決定されるということです。

今、西川課長が言うたように、6%が1%下がりました、大体1%で20%になります。6%が5%で1%。大体20%弱ですわね、計算したら。1分の6ですね。約17、8%の減額税になるであろうとなっておりますので、去年の予算で特交で2億8,000万計上いたしておりましたと思うんですが、ですから、その約17、8%で4,000万下がるであろうということで減額させていただいております。

それで、各市町村の影響ですけどね、これは、国においては、まだ各市町村どれぐらい影響が出るかというのは、まだ把握してないんですが、ですから、総務省においても各個別団体にこれによって支障が生じないように配慮しますよという文言だけできておりますので、今後、その地方交付税のこの算定基準を変えてこられますので、この23年度、これから恐らく国会通った以降変えてこられますので、この中で何らかの措置をされるであろうと町のほうは考えております。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 ようわかつたようなわからんようなあれやけど、結局は国がどうするかというところの見定めからで、実際どうなるかというのは、今後我々も見ていかなしやあないなというふうに今思いました。

それと、この交付税に関係しているのですけども、私、この予算の概要の一番後ろについているのをこれさつき部長、またご参照くださいって言うてはったのですが、私、

きのうから見させてもらってますのやけどね、この計画でいきましてね、私、斑鳩町が総合計画で人口についてはこの32年で2万7,000人になると。1,600人から減ってしまうんですって総計で見込み立ててはるのにね、こんな情勢が悪い中で、今さっき説明があったように、緩やかな回復の兆しは見られるものの、まだまだ予断が許されない状況で、個人の消費などは冷え込んだままだという見方を私は町もしておられると思う、私もしているんですけどね。そんな中であって、そのぐらい人口が減っていくのに、何で町税はこれ、この程度ぐらいの減る見込みで収まるのかなと。

それから、高齢化率も32%になってしまうってのはるからね、働いている人少なくなるしね、人口はそのぐらい2万7,000人って言うてるし。ほんで、地方交付税はというと、これ何でかこれ、どんどん高くなって、今、今年度でも3億ぐらい多くなって、20億ちょっと見込んで、それで別枠があるからっていうことで20億で、去年より多く見込んでいるけども、これずっと見ていって、これいや、交付税、こんなにふえるのかしらと。ことしふえるんだけど、私、割とちょっとほんまかなと思ってるぐらいやのに、こんな見込みで大丈夫なのかなと。特に、交付税の計算と町税の計算については、これを見てて、ちょっと疑問を感じたものですからね。そこのところについて、別に簡単で結構です、町がこの財政見通しを立てられたところで、少し説明をしていただけたらというふうに思います。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 今、斑鳩町の財政見通しにつきまして若干説明をさせていただきます。

資料のほうは予算の概要の一番最後のページについておる資料でございます。

今、ありましたように、この資料については、これまでの財政指標を中心とした計画を今まで載せておりましたが、それとは今、変えまして、実質の収支とそれから歳入歳出、それからその差引収支、また基本基金の取崩し等を反映した実質の収支に基づいて策定したものでございます。資料としましては、直近の5年間の決算状況がまた今申されましたように、総合計画の人口推計等をもとに算定いたしました。町税につきましては、今、申し上げましたように、生産人口1人当たりの額を算定いたしまして、集計の生産人口からもとに推計したものでございます。今、申し上げましたように、これだけ余り減っていかないんじゃないかということでご指摘もございますが、交付税につきましても、現行の制度等をそのまま継続されるということをご前提として推計していると

ころでございます。歳出につきましても、また投資的経費につきましても、大型建設事業等もございますが、そういう部分をこの10年間のスパンでできるだけ考慮いたしまして試算してございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 何か、今年度も交付税が上がってるのも有り難いんですけどもね、もう埋蔵金だって底を突いて、国だって厳しい状況になってきている中で、政権も不安定な中で、この交付税の見方というのも、やっぱり慎重に行っていただかないとあかんし。町税の見込みについて私もこれは全然理解できない。総計での人口推移、高齢化率から見てね、町税の推移がこれ、私はちょっと理解できへんので、それについては、町がいろいろな係数をもって、これ算定してはるのやろうけどもね、私の意見としてちょっとこれ、32年の見込みなんていうのは理解ができないという、町が出している数字とは矛盾しているんじゃないですかということをお願いしておきたいなというふうに思います。

○嶋田委員長 池田副町長。

○池田副町長 町税につきましては、今現在、推計できますのは、今、平成22年決算を見る中で、平成21年度決算、また平成22年の状況を見ると、生産人口ございましたね、労働者人口、その人口と平成32年の労働者人口の差がございます、それを徐々に減らしていったと。今、現在はそれしか方法がないと。人口的には約2万9,000人が2万7,000人になる、総人口は減りますけども、その内の生産人口はすべてではないです。生産人口も減っていきますので、その率で人口は減らしてますので、これぐらいの緩やかな数字になってくるということでもあります。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 今、再度、副町長がおっしゃっていただきましたけど、私の中ではまだ何かすっきりわからないんですが、それはそれで今後のことですのでね、また今後の斑鳩町の頑張りでまたどうなるかもわかりませんし、動向というのが重要かと思っておりますので。

あと、地域活性化雇用等の対策費というので、大きく23年度もプラスを、上乗せをされたということもあります。交付税のほうでいっても、今、総務部長の説明の中でも地域活性化、子育て支援や雇用での別枠があって、斑鳩町も前年度より交付税がふえましたというような話も今ありました。説明もありました。見ていきますと、地方交付税の基準財政需要額の独立費目として算定されるようになりました雇用対策地域資源活用臨時特例費、それまた23年度は名前が変わって活用推進費ってなっているようなんで

すけれども、こういうもので、しかもその費用がさらにまた上乘せされているということの中ではね、これについては、積極的に活用を23年度で行おうということというように体制になっているのかどうかというのは、私、この予算関係の書類を見てたら、いまちょっと自分自身でつかめなかったもので、この際ですので、全体的な問題として町のほうへ活用状況というのか、23年度に向けての考え方をお尋ねしておきたいというふうに思います。

○嶋田委員長 池田副町長。

○池田副町長 今、地域活性化対策、確かに総務部長が説明しました。別途加算約2,150億円をされております。これについては、当然、法人税減税の影響分も勘案したのも含んでおります、なっております。法人税減税というのが国会で出ておりますけども、それについて町村は影響がございます。それも勘案して別枠でこれだけやってますよと、こんなどんぶり勘定で、交付税で、はっきり申し上げてどんぶり勘定です。これについては、国の理屈上は、子育ての現物給付に使いなさいよ、または、住民生活自体をよくする事業に使いなさいよ。また、地球温暖化対策に使いなさい。例えば、町がやっておりますごみ分別ありますわね。それからいろいろ膨らんできております。それに使ってくださいよ。町は子育て町単事業いろいろやってますわね。例えば、小学校、中学校卒業までの医療費無料化、また少人数学級やっておりますわね、町単独で。それとか、ヒブワクチン、例えば国では10%個人負担ですけども、町では全額無償にやっておりますわね。子宮頸がんも同じです。また、健康診断もございます。健康診断、胃がん検診やったら1,000円から2,000円、各市町村とられておりますわね。これも斑鳩町は無料でやっております。高齢者インフルエンザ予防接種、これについてもたいたいのところは1,000円個人負担あります。奈良県では斑鳩と王寺かな、無償でやっております。これらの無償でやっている分にはお金を使いなさいとなっておりますので、町といたしましては、その無料実施を継続しておるということでご理解をいただきたいと思います。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 地域活性化の方はわかるんですけどね。もうひとつは、雇用対策、雇用対策地域資源活用臨時特例費から今度は活用推進費に変わった、これ4,500億程度予算があつてね、21年度の方から創設されているんですけどね。緊急雇用での金額もここでは上がってたんです、若干。若干上がってるねんけど、前からの臨時職員の採用の状

況の中でね、いや、これは地域の雇用を応援するためにやるのか、町が町の臨時職員の緊急雇用したりするのにも使えるのか、この分は交付税のほうに算入されてくるわけやからね。これをちょっと私もはっきりわからないので、これ数字を見てても流れがちょっとわからへんのでね、これ、町としてできるのかできへんのか、また23年度はこれを利用しているのか、この辺ちょっとはっきりお尋ねしたいと思います。

○嶋田委員長 池田副町長。

○池田副町長 普通交付税に算定されておりますのは、今先ほど申しあげましたような格好で、理論上はきてますよということです、理論上は。それをどう使うかというのは、各市町村、地方交付税は一般財源ですので、子育てと緊急雇用で2,150億、全国で上乗せしてますよ。これをどう使おうが町村の判断にゆだねますよ。これを子育てに重点的に使おう。また、臨時職員さん、町が正職員さんからも臨時職員さんをやっている部分もございますわね。それと、例えば、30人学級にしたときに講師さんを雇わなあきませんわね。これは新しい雇用となってまいりますので、そういうことになっておりますので、このうちで、そしたら町村で何ぼ使いなさいという理屈はございませんので。例えば、平成22年度、12月補正がございましたわね。あれは全国的に子宮頸がんとかヒブワクチンの2か月分の経費は交付税算されておるんですわ。そしたら、奈良県の市、17市については、また4月から実施ですやろ。理屈からいったら、交付税もらっておいて実際はしてないという理屈になってきますので、交付税とはそういう概念でありますので、それを理解していただいて、この地域活性化緊急雇用はそういうぐあいに使っておるということをご理解いただきたいと思います。何ぼ使えではございませんので。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 わかりました。だから、私は、これに対して町がどんな考え方を持って臨んでおられるかということをお尋ねしたかって、今、概略を副町長のほうから答えていただきましたので、おおよその考え方というのはわかりました。

すみません。もう1点だけ、予算書の13ページに歳出で並んでいます。ここで見ますと、第5款の農林水産業費だけが事業がいろいろ事業を伴うものの中での款としてはマイナスになっています。これ、国庫支出金地方債とかこういうふうに分けて書いていただいて有り難かったです。こっちの予算関係資料でも出していただいて、私、去年から言ってまして、今回出していただいてね、非常に有り難いなと思って、これを見て、

それで、前年度のと比較をしようと思って、国庫支出金を比較しようと思ったんですが、できなかったんで、ちょっと全体でお尋ねをしたいなというふうに思うんですが。

農林水産業費、国の今回の予算ではやっぱりいろいろな農業委員会に絡むような農業施策で結構減らされてたり、また、変に大きなところが参入できるために、大きく、ちょっとそっちで新しいことがふやされてたりとかいうような、非常に難しい予算取りせなあかんような状況があったんですけれどもね。率直に、細かいことについては、また各款での議論があると思います。率直に、この農林水産業費だけがね事業を持っている中での款でいえば減額になっているということは、そういった国の施策が影響をしているのか、していると私たちは見ていいのかどうか、それだけちょっとお尋ねをしておきたいなというふうに思います。

○嶋田委員長 川端観光産業課長。

○川端観光産業課長 農林水産業費のほうの減というのは、単純に土地改良事業、地元要望等による土地改良事業がありますので、その増減等がありますんで、そういう今回は土地改良事業がちょっと少なかったということで減になっていると思います。ただし、農地法改正とかそういう関係で、いろいろな事務費とかいう感じは増加しております。農地法改正で、農地台帳の中の量がふえたり、電子システムの改善に対しての補助というのは、特別な時限の補助ですのやけど、そういうのも補助がふえてますので、それを受けたりして、一応そういうふうにやっております。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 そうなんです。それがふえているのにね、ふえているのに、これだけ839万9,000円も減ってるから何でかなと。その土地改良事業だけかなと。ひょっとして、この国・県支出金とかが昨年度分としてはどうなのかな、ちょっと拾いきれなかったんで、その影響、国が出してきたその補助金の減額とか、今、すごい農業関係動いているから、そういう影響を受けたのかなというのがちょっと気になったんです。

細かい点につきましては、また各款のほうでお話を聞かせていただきたいと思いますので、以上です。

○嶋田委員長 小城町長。

○小城町長 今、川端課長が申し上げたように、全国土地改良連合会等の関係は大幅な削減ですから、今、課長が言うように、ともかく斑鳩町でもしたかっても補助率はないとか、いろいろな関係で、もう奈良県の結局、土地改良連合会が、非常に苦しい立場とか、

人件費も削減していかなといかんとということで、もう政府はかなり土地改良連合会の関係等については補助金をカットしているということでございます。

○嶋田委員長 ほかにございませんか。 小林委員。

○小林委員 すみません。1点。予算書の23ページのごみ処理手数料の指定ごみ袋の販売についてでありますけれども、金額が大幅にふえてますけれども、事業系ごみに関する金額なのかなとは思いますが、このふえた分の積算根拠ですけれども、事業系の自己申告にもとづいて町が積算されたのか、町が持つておられる実績のデータにもとづいて積算されたのか、この辺ちょっとご説明いただきたいと思います。

○嶋田委員長 栗本環境対策課長。

○栗本環境対策課長 ごみ処理手数料の積算根拠であります。当然ふえましたごみにつきましては、昨年8月から事業系のごみ手数料につきまして、指定袋制に変更させていただいた分で増加をしています。何分8月からの実績でございますので、それと、この4月から事業系の指定ごみ袋、2種類から4種類に増加をいたします。そういった分で、45リットル及び30リットルにつきましては、8月から11月現在の数量をもとに、そして、90リットル及び70リットルにつきましては、アンケート調査を実施しておりますので、その数値をもとに積算をしているところであります。以上です。

○嶋田委員長 よろしいですか。ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○嶋田委員長 ないようですので、これをもって総括と歳入全般に対する質疑を終結いたします。

次に、議会事務局所管に係る予算審査に入ります。

そしたら、11時まで休憩いたします。

(午前10時41分 休憩)

(午前11時00分 再開)

○嶋田委員長 再開いたします。

第1款議会費についての説明を求めます。 藤原議会事務局長。

○藤原議会事務局長 予算に関する説明書の36ページから37ページにかけてでございます。平成23年度の予算額につきましては、町議会の運営等に要する所要額として、1億3,968万8,000円を計上いたしました。前年度の予算額と比較いたしまして4,101万8,000円、率にしますと41.6%の大幅な増加となっております。こ

のように大幅な増加となりました主な理由は、ひとつといたしまして、地方議会議員年金制度の廃止に伴い、共済費が大幅に増加したことによるものでございます。2つ目としまして、議員報酬及び期末手当において、前年度議員数14名で計上いたしていましたが、議会改選に伴い、1名増の15名分を計上したことによること。3つ目としまして、育児休暇中の職員が復帰をいたしますことによる職員給与費の増加、以上が主な増加理由でございます。

次に、予算の主な内容につきましてご説明をさせていただきます。

予算額の内訳としましては、議員報酬及び職員人件費が主なものでございまして、あわせて1億3,176万9,000円となっております。なお、地方議会議員年金制度が6月1日をもって廃止されることに伴い、議員共済費として旧法による負担金として162万6,000円。そして、年金制度廃止後は年金支給等に要する費用がすべて公費負担となりますので、その公費負担分として4,126万1,000円。あわせて4,288万7,000円を計上いたしました。人件費のほかの主なものでは、議長交際費として50万円。3常任委員会及び議会運営委員会の行政視察研修に係る経費として旅費と使用料及び賃借料で125万3,000円。会議録作成に係る経費として、筆耕翻訳料と印刷製本費で250万9,000円。議会だより発行に係る経費として112万8,000円。生駒郡町村議会議長会負担金として117万3,000円を計上いたしております。

なお、筆耕翻訳料につきましては、平成23年度より本会議の会議録作成を速記からテープ翻訳に変更することによりまして45万5,000円の減額となっております。

以上が、議会費の本年度予算の主な内容でございます。

以上、簡単ではございますけれども、第1款議会費の説明とさせていただきます。よろしくお願いを申し上げます。

○嶋田委員長 説明が終わりましたので、第1款の議会費について質疑をお受けいたします。 里川委員。

○里川委員 私たち議会における人間としましてはね、こういうふうに予算が大幅にふえるということについては、どうもかなんなどと思っているんですけれども、かなんなどという原因っていうのは、議員年金の問題なんですけど、この議員年金が廃止される、今の局長の説明で、6月1日から全額公費で現在年金が支給されている方々の分を支払うんやということをおっしゃっておられたんですけれども。では、この金額っていうのが、現状、

何名の方に支払いをされている状況があるのかということと、これ、6月からこうなるということは予算としては10か月分の予算ということでもよろしいんですね。その点、確認をさせていただけたらと思います。

○嶋田委員長 藤原議会事務局長。

○藤原議会事務局長 まず、支払いをします人数でございますけれども、斑鳩町が斑鳩町の分を負担するということではございません。全国の対象者の方につきまして負担をしていくということでございます。

全国で申し上げますと、現在年金を受給されておられます方につきましては、町村議会議員の関係につきましては平成21年度末でございますけれども、2万8,066人ということでございます。

そして、2つ目のご質問の10か月分かということでございますけれども、先ほど申し上げましたように、旧法による分が4月分、5月分の2月分が162万6,000円。そして、6月1日に廃止になりますので、6月から翌年の3月までの10か月分としまして4,126万1,000円を計上したものでございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 そうしましたら、全国の方の分を2万8,066人を、これ町村で、今ある町村で割るというのか、そういう考え方なんですよね、それやったら。そしたら、その按分の仕方というのはどんなふうになっているんでしょうか。

○嶋田委員長 藤原議会事務局長。

○藤原議会事務局長 按分といいますか、ひとつの各町村議会のほうから共済金を集めまして、そして全体で先ほど申し上げました方の年金等を負担していくという考えでございますので。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 そやから、全国の方の分を、言うたら抛出しているような状況になっていると。そしたら、抛出する金額の決め方ね、斑鳩町が何ぼやという。どういう根拠でそれが決まるのかというのがね、ちょっと私よくわからへんので、自分のとこが抱えている人数とかに影響があるのかなとか、そんなこともちょっと思ってたんで、自分とこの支払いが何人おるといようなこととかね。そんなんも何か関係するのかなとか思ってたんですけど。そやけど、これは今の説明でいうと抛出しているような格好になっているようで、それならどういう形で、じゃあ、斑鳩町はいくらですというふうに決まるのか

というのを、それだけちょっとお聞きしておきたいと。

○嶋田委員長 藤原議会事務局長。

○藤原議会事務局長 その拠出負担金の積算根拠ということでございますけども、これにつきましては、議員の標準報酬月額、斑鳩町でございますと27万6,000円。それに対して人数分の、今回につきましては、予算計上いたしましたのは1か月100分の88.5という率をもって積算をいたしております。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 標準月額の100分の88.5とか言われても、ちょっと本来の年金って、すごく、本来支給されている年金というのは低いですやんか、すごく。今の私らが月額でもらっている報酬から考えたらすごく低い、3分の1もないinchやうかなというぐらゐの金額になるのかなというふうに思うんですけどね。それで、そういう年金を支払っている中で、全国に2万8,066人いらっしゃる、その人たちにそういう金額を払うのに斑鳩町が担っている部分というのが、担わなければならない部分というのが、4千万円ぐらいありますよと。4月、5月はシステム違いますからね、6月以降ね。その担わないとあかんの4千万円ありますよと。6月以降のその4千万円ほど担わなあかん部分について、どういう計算で斑鳩町は4千万円ですよって言われているのかが、ちょっとまだ今の説明やったら私ちょっと理解できへん、頭ついていかれへんので。何かもうちょっとわかるように言っていただけたらありがたいんですが。その標準月額はいいんです。それで、人数。自分ところが抱えている人数というのにも必要なんだろうとか、もうちょっと詳しく、きちっと言っていただけたら、ありがたいんですけど。

○嶋田委員長 藤原議会事務局長。

○藤原議会事務局長 先ほど申し上げましたように、共済議員年金につきましては、全国の共済会でまずお支払いをするということで、先ほど申し上げましたように、全国で3万人弱の年金受給者がいらっしゃいます。その方の必要な経費をまず算定をされます。そして、必要な所要額を算定した上で、各町の負担金を決めるわけですけども、その際に、各町の議会の議員の人数、基準日現在の議会の人数というのはほぼ確定しておりますのでわかります。それに対して必要な経費に対する必要額、集めるお金というのが出てきますので、人数がわかっていますので、それに対して率が求められるということで決めてこられるということになります。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 何だか、まだもうひとつようわかりませんので、また何か書いたものでも後からいただいて、またよく勉強させていただきたいと思います。大枠はちょっとわかりましたんで。これっていうのは、斑鳩町が4千万ほど出さんならんということにつきましてはね、こういうふうに制度が変わりましたよといっても、これ全く斑鳩町の、もちろん一般財源って書いていますけれども、完全に一般財源の中でも、斑鳩町の町税で支払わなければならないのか。それとも、何らかの交付税の中で、何らかの枠があって、多少なりとも交付税でも、この戻りって言ったら言い方おかしいですけどね、何か斑鳩町に対して何かあるのか。こういう大きな制度が変わったときに、国も関与している状況の中で、そういうのってあるのかな、どうなんやろうということも気になりますので、全くの皆さんからいただいた税金からしか払わへんのやというのやったら、ちょっとこれ、ほんま大変やなというのもありますのでね、それちょっと確認をさせていただけたらと思います。

○嶋田委員長 藤原議会事務局長。

○藤原議会事務局長 まず、今回の地方議会議員年金制度の給付に要する経費につきまして、公費負担するということになっておりますけれども、これにつきましては、全国の市町村の市町村議会議員の公費負担額としましては、全国で23年につきましては、1,243億円が必要であるというふうに算定をされております。これにつきましては、既に全員協議会等で資料もお配りさせていただいておりますけれども、地方財政計画にこの額が計上をされております。すなわち地方財政計画に計上されるということにつきましては、地方交付税の基準財政需要額にこの分が算入されてくるということになってまいります。

これにつきましては、全国議長会のほうもいろいろと国のほうと折衝されたわけですが、国の方としては、地方議会議員の年金については、地方公共団体の負担であるということの中で、このような制度とされたということでございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 地方交付税で一定算入されると。それは全額ということなのか、今の説明でいくとちょっとよくわからなかったのですが、一体、ほんまにはっきり言いたいんですよ。その地方交付税で何割は地方交付税で手当てされるけど、何割は純粋に町税で賄いなさいよということになるのかという、やっぱり我々の将来のこともですのでね。しかも変わる制度のことなので、ちょっときちっと聞いておきたいと思うのですが。

○嶋田委員長 藤原議会事務局長。

○藤原議会事務局長 先ほど申し上げましたように、全国市町村で1,243億円の措置をされると。これについては全額でございます。したがって、交付税についても理論的には全額の算入ということでお考えいただければいいかと思えます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 今何か、ほう、そうかみたいな感じで、そういうことであれば、ちょっと安心をしましたがけれども、それとともにですね、あともう1点だけお聞きしたいのは、郡とか広域の議長会とか、それから町長会とか、いろんなことでこれまでいろいろ経費なんかの問題もあったんですけれども、私たちはその点につきましても、私たちはとても議長や副議長なんていうポストは就いたこともありませんのでね、議長会がどんな運営をされているのかも全くわからないんですけれども。ただ、そういうものは抑えていこうという流れがあった中で、今回ですね、前年と比べましたら12万2,000円、郡の議長会の負担金がふえていると。各議会、斑鳩町は定数は変えませんが、定数が減る議会も郡内にもあると思えます。そんな中であって、この負担金が逆に上がるというのは、どういう状況でこういうふうになっているのか、ちょっと議長会の中身もよくわからないので唐突な質問になりますけれども、この予算増になった理由についてお尋ねをしたいなというふうに思えます。

○嶋田委員長 藤原議会事務局長。

○藤原議会事務局長 生駒郡町村議会議長会の負担金の件でございますけれども、簡単に申し上げますと、23年度へ繰り越す剰余金が減少したということが主な理由でございます。町村議長会におきましても、歳出の見直し等々をされてました中でも、削減をされましたけれどもなおかつその程度が不足するということで増になったということでございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 今後、この席に議長もおられますので、この議長会の負担金が117万3,000円という予算がありますけれども、もう100万以上のお金を持ち寄って、議長会で本当に何をするか、何をすべきか、議長会としてどうあるべきかというようなことがさらに突っ込んで検討されるように、議長並びに事務局などもさらにまた研究していただいて、議会の要望なんかも聞きながら、また研究・検討していただきたいということをお願いしておきたいと思えます。

○嶋田委員長 ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○嶋田委員長 これをもって第1款議会費についての審査を終わります。

それでは、次に総務部・会計室所管に係る予算審査に入ります。

まず初めに、第2款総務費について説明を求めます。 清水総務部長。

○清水総務部長 それでは、第2款総務費につきまして説明をさせていただきます。

まず最初、一般会計予算書の13ページをお開きいただきたいと思います。

第2款総務費につきましては、総額9億952万9,000円を計上しております。

(仮称)地域交流館の整備等によりまして、前年度の予算額と比較いたしまして5,957万5,000円、7%の増額となっております。

以降につきましては、座って説明をさせていただきます。

それでは、一般会計予算書の37ページをお開きいただきたいと思います。37ページの第1項総務管理費についてでございます。まず37ページから40ページにかけての第1目一般管理費でございます。本年度は3億9,223万8,000円を計上しております。前年度と比較して(仮称)地域交流館の整備等によりまして、5,996万5,000円、18.0%の増額となっております。予算の財源内訳は、県支出金で612万5,000円、地方債で4,240万円、その他で187万3,000円、一般財源で3億4,184万円となっております。

主な内容といたしましては、特別職並びに一般職の人件費等と、職員の健康管理、コミュニティバスの運行、自治会活動への支援、先ほども申しましたが(仮称)地域交流館の整備などに要する費用となっております。

初めに、職員の健康管理でございますが、408万1,000円を計上しております。内訳といたしましては、38ページにございます第8節報償費で産業医謝金36万円、39ページの第13節委託料で職員健康診断等業務委託料372万1,000円となっております。職員の心と体の両面からサポートし、働きやすい職場環境を整えることから、労働安全衛生法の規定に基づきます産業医を設置するとともに、定期健康診断等を行い、職員の健康管理に努めてまいります。

次に、コミュニティバスの運行では、39ページの第13節委託料でコミュニティバス運行業務委託料1,077万3,000円を計上しております。コミュニティバスは公共施設利用の際の利便性を高めるとともに、住民皆様の移動手段の確保と各行政機関を

經由することによって、各種イベントや行政への参加機会の拡充を図るという目的から、平成12年度から運行しておりました。平成22年度からは車両の老朽化に伴いまして新規車両で運行をしております。高齢者をはじめとした住民の社会参加の促進にもつながることから今年度も継続して実施してまいります。

次に、自治会活動への支援では、40ページの第19節負担金補助及び交付金で、自治会文具料等助成金616万1,000円、地域集会所施設整備費補助金1,931万4,000円を計上しております。コミュニティ活動は、人と人との絆を育み、住むまちを知り、愛着を深めるとともに地域住民の連帯意識を高め、地域での日常生活を豊かで潤いあるものにいたします。中でも地域コミュニティの核となります自治会組織は、地域の安全と安心においても住民と行政との協働においても重要な役割を果たすことから、よりよい地域づくりを目指されている自治会活動を引き続き支援してまいります。

次に、(仮称)地域交流館の整備では4,599万1,000円を計上しております。(仮称)地域交流館は、さまざまなグループや団体の自治会という枠を超えた活動を支援するため、広域的な自治会を対象としたコミュニティ施設であり、まずは法隆寺地区において今年度と平成24年度の2か年で整備を行うものであります。本年度は測量設計及び用地購入を行うための必要経費といたしまして40ページにございます第13節委託料で測量設計委託料等570万円、第17節公有財産購入費で4,000万円等を計上しております。

続きまして、40ページから41ページにかけましての第2目文書広報費についてであります。本年度は719万4,000円を計上しております。前年度と比較して48万円、7.1%の増額となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金で7万6,000円、県支出金で3万8,000円、合わせて11万1,000円、その他で105万6,000円、一般財源で602万4,000円となっております。

主な内容といたしましては、町広報紙の発行、「声の広報」、町ホームページの運用などに要する費用となっております。はじめに、町広報紙の発行につきましては、62万4,000円を計上しております。内訳といたしましては、41ページの第11節需用費の印刷製本費で601万6,000円、第12節役務費の通信運搬費16万3,000円のうち9万1,000円などとなっております。本年度も住民の皆様からのお声やご意見を反映させながら、暮らしの情報などとともに、主要なまちの課題あるいは話題を写真つきで取り上げて特集ページを編集し、より見やすく、わかりやすく提供する

ため、その内容の充実を図ってまいります。

次に「声の広報」では17万6,000円を計上しております。内訳といたしましては第8節報償費の声の広報謝金で16万円、第11節需用費の消耗品費4万9,000円のうちの1万6,000円となっております。引き続き視覚障がい者等の方に対しまして、ボランティアグループいかるが草笛のご協力を得ながら、「声の広報」をお届けしてまいります。

次に、町ホームページの運用では61万8,000円を計上しております。内訳といたしましては、第11節需用費の消耗品費4万9,000円のうち1万3,000円、第14節使用料及び賃借料で60万5,000円となっております。

続きまして、41ページの第3目財政管理費についてであります。本年度は357万1,000円を計上しております。前年度と比較として3万9,000円、1.1%の減額となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。主な内容といたしましては、ふるさと納税事務、公会計改革の推進に要する費用となっております。はじめに、ふるさと納税事務では、第8節報償費で15万円、第12節役務費の手数料で4,000円、合わせて15万4,000円を計上しております。ふるさと納税につきましても、本町においても、これまでも全国の人々から応援をいただいているところでございます。今後におきましても、いろいろな機会を通して情報発信に努めてまいりたいと考えております。次に、公会計改革の推進では、町の全会計を連結した財務4表の作成に係るサポートを受けるための費用として、第13節委託料で68万円を計上しております。

次に、第4目会計管理費でございます。会計事務に要する費用として、本年度は46万1,000円を計上しております。前年度と比較すると1万5,000円、3.2%の減額となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。

続きまして、41ページから43ページにかけての第5目財産管理費についてであります。本年度は9,662万円を計上しております。前年度と比較して2,509万6,000円、20.6%の減額となっております。予算の財源内訳は、その他で490万3,000円、一般財源で9,171万7,000円となっております。主な内容といたしましては、役場庁舎の維持管理、役場来客用駐車場及び職員駐車場の土地の借り上げ、基金の運用などに要する費用となっております。初めに、役場庁舎の維持管理では、41ページから42ページの第11節需用費のうち、燃料費で206万円、光熱水費で1,

292万9,000円、合わせて1,809万6,000円。次に、42ページの第12節役務費の通信運搬費で238万2,000円、第13節委託料で役場庁舎の清掃業務等の施設管理委託料2,729万6,000円など合わせて5,051万9,000円を計上しております。次に、役場来客用駐車場及び職員駐車場の土地借上げでは、43ページの第14節使用料及び賃借料の土地借上料389万7,000円、第13節委託料の駐車場の草刈業務委託料112万円のうち18万6,000円など、合わせて411万円を計上しております。

次に基金の運用でございます。43ページの第25節積立金及び第28節繰出金の合わせて3,364万円を計上しております。財政調整基金等の積立基金に係る運用益、そして斑鳩町いきいきの里債やJR法隆寺駅周辺整備事業及び総合保健福祉会館の町債の将来の償還対策として減債基金への積み立てを行うとしております。

続きまして、43ページから46ページにかけましての第6目企画費についてであります。本年度は1億5,194万1,000円を計上しております。前年度と比較して936万4,000円、6.6%の増額となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金で3万7,000円、その他で136万2,000円、一般財源で1億5,054万2,000円となっております。主な内容といたしましては、友好都市交流の推進、参加と協働のまちづくりの推進、行財政改革の推進、OA化の推進、男女共同参画社会の推進、まちづくりを担う人材の育成、地域文化の振興などに要する費用となっております。

はじめに、友好都市交流の推進では、106万円を計上しております。その内訳は、44ページの第11節需用費の消耗品費185万5,000円の中の40万円。45ページの第14節使用料及び賃借料の調印式会場使用料としての施設使用料。有料道路使用料や車両借上料など25万円となっております。住民の皆様方が郷土愛と誇りを持ち、斑鳩のよさを再認識できる機会とするために、平成9年度に兵庫県と大阪府の両太子町及び長野県飯島町との友好都市提携を結び、以降各町がそれぞれ主催するイベントへの住民参加や物産展への出店をはじめとした交流活動を進めてきております。新年度におきましては、新たに法隆寺の食封としてつながりがございます神奈川県小田原市との友好都市提携について、町政65周年を迎える平成24年2月11日に締結することを目指しまして、事前の交流も進めてまいります。

次に、参加と協働のまちづくりの推進では、91万4,000円を計上しております。その内訳は、44ページの第13節委託料の参加と協働のまちづくり推進事業委託料と

して90万8,000円などとなっております。第4次斑鳩町総合計画の重点テーマであります参加と協働を具体的に展開するため、施策の体系化や参加と協働の制度確立を目指すとともに、協働のまちづくり活動のモデル事業を立ち上げ、その初動期の活動を支援してまいります。そのために、住民活動の実態把握や参加と協働の仕組みに関する全国の自治体の事例調査分析、総合計画の重点施策と連動した住民主体の取り組みの立ち上げ、参加と協働のまちづくりに関する条例、指針、支援体制などの仕組みづくりについて、平成23年から2か年計画で取り組んでまいります。これらの事業をより効果的に実施していくために、総務課内に協働のまちづくり推進係を新たに設置します。

次に、OA化の推進では4,654万7,000円を計上しております。その内訳は、44ページ第13節委託料のうち総合行政ネットワークシステム機器保守業務委託料など、電算システム委託料等で920万3,000円、45ページの第14節使用料及び賃借料でパソコン使用料等で3,454万4,000円。45ページから46ページにかけての第19節負担金補助及び交付金のうち、46ページにあります汎用受付システム開発運営事業負担金37万2,000円等で43万7,000円となっております。従来の業務の電子化することにより簡素で効率的な行政運営を推進するとともに、県及び県内市町村で共通する業務及び課題につきましては、奈良県電子自治体推進協議会を活用しながら、電子申請サービスの拡大や機器の共同調達などの取り組みを進めてまいります。新年度では職員用業務パソコンの更新及びグループウェアなどを更新してまいります。

次に、男女共同参画社会の推進についてであります。78万3,000円を計上しております。その内訳は43ページの第1節報酬で男女共同参画推進委員会委員報酬6万円。44ページの第13節委託料の女性総合相談事業委託料45万4,000円。45ページの第19節負担金補助及び交付金のうち、女性のエンパワーメント補助金で22万円などとなっております。男女共同参画意識の醸成に努めるとともに、悩みを1人で抱えることなく、気軽に相談できる女性総合相談事業を引き続き実施してまいります。また、地域に根づいた男女共同参画社会づくりを進めるため、女性のエンパワーメント活動の支援として、男女共同参画の啓発・実践を行う住民グループの活動を引き続き支援してまいります。

次に、地域文化の振興につきましては、新年度におきましても、引き続き太子の日フォーラムを開催いたしますが、本年度は、その開催費用といたしまして、43ページの

第8節報償費の講師謝金5万6,000円など10万円を計上しております。

次に、地域文化の振興、情報発信の拠点でありますいかるがホールの維持運営では8,584万5,000円を計上しております。その内訳は、44ページの第12節役務費で火災保険料35万9,000円、第13節委託料で文化振興センター施設管理運営業務委託料8,548万6,000円となっております。

次に、財団法人斑鳩町文化振興財団の活動支援では、45ページの第19節負担金補助及び交付金で、文化振興財団補助金1,379万9,000円を計上しております。

次に、まちづくりを担う人材の育成では、住民と行政の協働によるまちづくりを実現させるため、本町の将来あるべき姿や、そのために住民ができることなどを話し合い、手づくりのイベント等を企画している住民グループ、まちづくり斑鳩太子塾の活動を引き続き支援してまいります。その費用として、45ページの第19節負担金補助及び交付金で、まちづくり人材育成事業補助金として27万円を計上しております。

次に、46ページの第7目公平委員会費についてであります。公平委員会を開催するための必要費用として、本年度は昨年度と同額の6万4,000円を計上しております。予算の財源内訳はすべて一般財源となっております。予算の内訳は第1節報酬で委員報酬5万7,000円。第14節使用料及び賃借料1,000円。第19節負担金補助及び交付金6,000円となっております。

続きまして、47ページの第10目防犯対策費についてであります。本年度は845万4,000円を計上しております。前年度と比較して57万6,000円、6.4%の減となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。主な予算の内容といたしましては、消防団員による年末警戒の実施、地域防犯の推進、自治会防犯灯の新設及び維持管理への助成などとなっております。だれもが安全で安心して暮らせる地域社会の形成に向けて、地域防犯のためのネットワークづくりを引き続き進めてまいります。

続きまして、48ページから50ページの第2項徴税费についてであります。初めに48ページから49ページの第1目税務総務費についてであります。本年度は7,157万円を計上しております。前年度と比較して17万5,000円、0.2%の増額となっております。予算の財源内訳は、県支出金で2,040万円、その他で181万円6,000円、一般財源で4,935万4,000円となっております。職員の人件費と各協議会等負担金、固定審査評価審査委員会の運営に要する費用を計上しております。

次に、49ページからの第2目賦課徴収費についてであります。本年度は6,216万5,000円を計上しております。前年度と比較して503万7,000円、8.8%の増額となっております。予算の財源内訳は県支出金で2,040万円、その他で5万7,000円、一般財源で4,170万8,000円となっております。増額となっております主な要因につきましては、公金収納において、住民の生活スタイルの多様化に対応し、納付・納税者の利便性の向上を図ることを目的に、新たな公金収納方法といたしましてコンビニ収納・ペイジー収納を導入することに伴い、これにかかるシステムの整備等の費用を計上していることによるものでございます。

主な予算の内容につきましては、町税の賦課徴収に必要な課税事務、コンビニ収納・ペイジー収納導入に伴うシステム整備等に係る委託料や賦課・収納電算ソフト使用料などに要する費用となっております。主な予算の内訳につきましては、49ページの第13節委託料で、住民税課税事務委託料等487万2,000円。50ページの新公金収納導入業務委託料1,400万円など3,091万8,000円。50ページの第14節使用料及び賃借料で、各税の事務処理に係る電算ソフト使用料等1,477万3,000円。第23節償還金利子及び割引料で、町税の過誤納付の償還に要する償還金及び還付加算金682万円となっております。

続きまして、52ページから54ページにかけましての第4項選挙費についてであります。初めに52ページの第1目選挙管理委員会費についてであります。選挙管理委員会の運営費用として、本年度は162万2,000円を計上しております。予算の財源内訳は、県支出金で9,000円、一般財源で161万3,000円となっております。選挙人名簿の定期登録や裁判員候補者の選任等に係る経費を計上しております。予算の内訳は、第1節報酬で委員報酬31万9,000円、第11節需用費で消耗品費等50万円、第14節使用及び賃借料で電算ソフト使用料61万8,000円などとなっております。

次に、53ページの第2目常時啓発費についてであります。本年度は昨年度と同額の7万円を計上しております。予算の財源内訳はすべて一般財源となっております。明るい選挙推進協議会委員への謝金5万円や小・中学生の児童の選挙啓発ポスター募集等に係る経費を計上しております。選挙が公明正大に行われ、ひとりでも多くの方に投票を行っていただけるよう、斑鳩町明るい選挙推進協議会が中心となり、その啓発に努めてまいります。

次に、第3目奈良県知事・議会議員選挙費についてであります。平成23年4月10日執行予定の奈良県知事選挙及び奈良県議会議員選挙の執行に係る費用として689万4,000円を計上しております。予算の財源内訳は、すべて県支出金となっております。予算の内訳は第1節報酬で、投票管理者、投票立会人等の報酬102万6,000円。第3節職員手当等で、職員の時間外勤務手当等312万5,000円。第11節需用費で93万5,000円。第12節役務費で23万2,000円などとなっております。

次に、53ページから54ページの第4目斑鳩町議会議員選挙費についてであります。平成23年4月24日執行予定の斑鳩町議会議員選挙の執行に係る費用として620万円を計上しております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。予算の内訳は、第1節報酬で投票管理者、投票立会人等の報酬82万円。第3節職員手当等で職員の時間外勤務手当等135万円。54ページの第11節需用費で150万3,000円。第12節役務費で204万5,000円などとなっております。

次に、54ページの第5目の斑鳩町農業委員会選挙費についてであります。平成23年7月19日に任期満了に伴う斑鳩町農業委員会委員選挙の執行に係る費用として130万円を計上しております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。予算の内訳は、第1節報酬で投票管理者、投票立会人等の報酬34万9,000円。第3節職員手当等で職員の時間外勤務手当48万5,000円などとなっております。

54ページの一番下に三角印で参議院議員選挙費と書いてございますが、これにつきましては、廃目としております。

続きまして、55ページの第5項統計調査費についてであります。第1目指定統計調査費につきましては、指定統計調査の実施費用として、本年度は91万7,000円を計上しております。前年度と比較いたしまして、963万9,000円、91.3%の減額となっております。予算の財源内訳は、すべて県支出金となっております。内訳といたしましては、第1節報酬で調査員報酬62万5,000円、第3節職員手当等で職員の時間外勤務手当等16万7,000円、第11節需用費で消耗品費等5万3,000円などとなっております。本年度に実施される指定統計調査は、経済センサス調査でございます。それと前年度に行った調査の整理を行う工業統計調査となっております。調査の実施に当たりましては、引き続き個人情報等の保護等に細心の注意を払いながら実施してまいります。

続きまして、55ページから56ページの第6項監査委員費についてであります。ま

ず55ページの第1目監査委員費についてであります。監査事務に要する費用として、本年度は1,023万5,000円を計上しております。前年度と比較して2万6,000円、0.3%の微増となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。予算の内訳は職員の人件費と第1節報酬で委員報酬96万円、56ページの第11節需用費で消耗品費28万8,000円などとなっております。

以上で、第2款総務費のうち総務部が所管いたします予算の説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願いをいたします。

○嶋田委員長 説明が終わりました。

13時まで休憩いたします。

(午前11時45分 休憩)

(午後 1時00分 再開)

○嶋田委員長 再開いたします。

それでは、総務部・会計室所管に係る予算審査の第2款総務費についての説明が終わりましたので、質疑をお受けいたします。里川委員。

○里川委員 そしたら、少しだけお聞きしたいのでお願いします。

予算書の39ページにあります13節の委託料の中にあがっております人事情報管理システム臨時職員管理機能導入業務委託料ということで200万円あがってるんですが、これは今までになかったものではないかなというふうに思いますので、この内容について少しお尋ねをしたいのと、同じページですので併せて申し上げますが、その2つ下にあります職員採用試験問題作成等の業務委託料なんですが、22年度におきましても採用試験を行われ、6名の採用をしたということでしたが、昨年から比べまして、23年度再び職員の採用をするにしましても、これ前年度の予算から見ますと22万1,000円ふえているというかなり大幅な増になっているのは同じ試験をするのに何でなんやろうという疑問があります。それと、もうひとつは、この委託料の下から2段目にありますメンタルヘルスの研修講師委託料なんですが、これも前からやっていますが、今回、やはり予算が大幅増ですね。昨年と比べましたら15万1,000円ふえているようです。内容を変えて、いい内容のものをやっていただけるといふのなら大歓迎なんですが、ただ、内容についてがよくわからないので、この3つについて教えていただきたいというふうに思います。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 まず1点目の人事情報管理システム臨時職員管理機能導入業務委託料ということで200万円を計上させていただいておりますが、これにつきましては、現在、臨時職員の雇用については総務課のほうで、それから教育委員会の採用につきましては教育委員会総務課のほうで行っております。出勤の状況あるいは賃金の計算とかあるいは保険料の支払いについてはそれぞれの配属されております所属課のほうで賃金の費目もそちらのほうで計上させていただいているということがあるんですけども、賃金計算とか保険の支払いについては各課でやっていただいているという現状がございます。そうした中で、業務が分散されているということがございますので、これはある程度一括でどこかの課で、一括でやるほうが効率がいいだろうということで、今回こういうシステムがあるということですので、これを導入させていただいて、臨時職員の雇用あるいは賃金計算、各種保険料の支払いについて一括で、これは総務課のほうで、これはシステム導入、これは正規職員のシステムが今入っておりますので、給料計算が入っておりますので、そこにこの臨時職員のシステムを入れ込んで、総務課のほうで一括して管理をしたいということで計上をさせていただいております。

それから、職員採用試験の問題作成業務でございますけれども、これにつきましては、22年度、今年度からインターネットによる受付ということで、従前は窓口に来ていただいてということでやっておりましたけども、22年度からインターネットによる申し込みというふうに変更をしております。そうしますと、やはり全国的にインターネット、ホームページを見て申し込みをされるということがございますので、ことし平成22年度実施させていただいたんですけど、やはり2割か3割ぐらいの申し込みがふえておりますので、そういった関係、今年度はちょっと流用で対応させていただいたということですけども、平成23年度につきましては、それも見込んだ中でふやさせていただいたということがございます。

それから、メンタルヘルスの研修でございますが、これにつきましても、今年度は全職員対象に1回研修を実施をさせていただいたんですけども、やはり、それぞれ職種に応じたといいますか、管理職を対象としたメンタルヘルス研修でありますとか、あるいは係長、あるいは一般職というふうな形でちょっと区分を分けて、来年度、分けたほうがいいのではないかと、全体でやるよりも、それぞれ職責も違いますし、やはり管理職でしたら細かく見ていかないとあかんというのもございますので、そういったことで、回数を今年度1回でしたけど、それを2回、あるいは3回に分けてさせていただきたい

ということで、その予算が増になったということでございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 1点目のシステムのことなんですけれども、これは一括でやるほうがもちろん効率がいいのはわかりますし、そうされたいと思うんですが、そうなりますと、今後、予算とかを編成したり、予算決算で私たちがこういうふうに資料を出していただいて見ていく場合、せっきく一括管理してはるのやけども、各課でそういう臨時職員の賃金はここでこれだけ、ここでこれだけっていうふうに、またそっちへ予算書なり決算書なりに振り分けていってもらわないとあかんというようなことになるのか。それとも、それは工夫をして、総務で一括してあげて、これはどこ対応、どこ対応って、その中で分けて何か、資料もそういうふうにしていただけるのか、そういう方法についてはわかりやすい方法をとってやっていっていただけたらと思うんですが、それについては、何かお考えになってますか。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 これにつきましては、今も正規職員の場合も、各それぞれ費目ごとに計上させていただいておりますけど、これについても今、総務課のほうで一括して、このシステムが、一括して作成できるようになったという形をとっておりますので、臨時職員につきましても、費目については従来どおりの費目のところで計上させていただきますけど、支払いの作業については、その他で一括で作成できるようなシステムの変更といえますか、そういう取り扱いでさせていただきたいと考えてます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 わかりました。そしたら、私たちにはそのシステムを変更しても私たちには何ら影響がないということで理解をさせていただきます。

それとメンタルヘルスの研修なんですけれども、全職員対象プラス管理職だとか役職についても併せてやっていくと。ですから、今まで1回だったのを複数回やるということですが、できましたら、今、斑鳩町も女性の職員さんが多くなっております。子育てをしながら、家庭を持ちながら、仕事をする中でのストレスとか、そういうものもいろいろあるのではないかなというふうに思います。そういう点についてもご配慮いただきまして、なかなか仕事柄で、いろんな方にやっぱり相談なかなかしにくいということもあるかもしれませんのでね。また、ちょっと女性の職員さんなどの意見も聞いていただきまして、そういった家庭を持ち、子育てをしながら仕事をしている女性の立場の、こ

ういうメンタルヘルスみたいなものも必要であれば取り組んでいただけたらというふう
に思いますので、よろしくをお願いします。

○嶋田委員長 ほかにございませんか。 木田委員。

○木田委員 38ページの総務管理費の中の8節の報償費の中の上から3番目の公益通報
内部通報相談員謝金と書いてますけど、5,000円ですか、これわずかなんですけど、
どのような相談を受けられるのかについてと。

それと40ページの総務管理費の中の13節委託料の中の(仮称)地域交流館設計業
務委託料ということなんですけども、この地域というのは、その地域の要望とかそんな
んも聞き入れて、そして設計業務に当たられるのかということと、それと17節の公有
財産購入費の(仮称)地域交流館整備用地ということでどれぐらいの面積を要するのか。

それともう1点だけ、44ページの13節の委託料の中に真ん中辺ですが、新公的個人
認証システム導入業務委託料ということで9万5,000円ということなんですけど、
これはどういう何をシステムというんですか、どういうふうなことをするシステムとな
るのか、それらについて、その点聞かせていただきたいと思います。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 まず、1点目の公益通報内部通報相談員謝金でございますけど、これにつ
きましては、平成21年2月から斑鳩町の公益通報に関する取り扱い要綱ということで
定めさせていただいている中で、これは役場の内部で、もし法令違反があつて、それを
通報する者の不利益な取り扱いについては保護していくという考え方のもとに制定した
ものでございますけども、これにつきましてこの相談員というのを、これは外部の弁護
士さんをお願いをしているんですけども、相談員という形で設けておりますので、もし
その職員が相談をする場合には、内部の関係だけでなく、やはり外部の方にも相談でき
るような体制をとっているということでございます。これまではそういった相談は今ま
ではございません。

○嶋田委員長 吉田総務課参事。

○吉田総務課参事 それでは、地域交流館の件で、委託料の前に先に用地のほうにつつま
してご説明いたします。用地につきましては、今地元自治会と協議はしておりますもの
の、まだ平成23年度に不動産鑑定等を入れまして、用地について適正な価格で買い取
るようになっております。まだその辺が確定しておりませんので、用地費につきましては、
暫定予算と考えていただきたいと思います。

それと登記業務委託料につきましては、これにつきましては不動産鑑定委託料と登記業務委託料を含んでおります。それと地域交流館の業務委託と申しますのは、工事設計委託料ということで、これにつきましては、風致の関係とかいろいろありますので、それに伴います申請による書類作成もこの中に含んでおりますことをご理解のほどをお願いいたします。以上でございます。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 44ページの新公的個人認証システム導入業務委託料でございます。これにつきましては、住民課のほうであります機械でございます、5年ごとに更新するものでございまして、この23年度に更新をしていくというものでございます。その更新の作業の委託料でございます。

○嶋田委員長 木田委員。

○木田委員 地域交流館の業務委託ということなんですけども、私、聞かせてもらいたいのは、設計業務ということで、地元のそういう地域の人の意見を聞き入れて、その設計に当たられるのか。あるいは、町からそういう設計をして、そして、地元へその設計どおりにおろしていかれるのか、その点と、そして用地については、これ最低どのぐらい要るのか。その用地が確保できた分を皆が使うのか。200か300平米か知らんけど、そういうふうな何はもう、これ4か所でこれからやるということだから、ひとつのところで大きなのをつくってもうたら、皆同じようにやっぱり4か所ともやらんなんということになってくるのではないかと思うので、その点について、一応は面積というんですか、敷地面積は何ぼぐらいで建物は何ぼぐらいとかいう、そういう考え方があるのかどうかお聞かせ願いたいと思います。

○嶋田委員長 吉田総務課参事。

○吉田総務課参事 まず、用地については今のところ要望いただいている範囲で600平米程度と考えております。それと設計について、地元と協議してよりよい建物を、また管理につきましては、地元で管理運営していただきますので、地元とも十分協議してまいりたいというふうに考えております。最終的には町で一応確定しますので、一応地元とは十分協議してまいりたいと考えております。

○嶋田委員長 木田委員。

○木田委員 一応、何か用地のほうだったら600平米ということなんですけど、これは結構広い面積が要ると思いますねんけど、今、東里か、何か法隆寺のほうでそういう会

議やってくれてはるということなんですけども、そのほかの3地域ではまたそういう用地が確保できるのかどうかということも今後の何になってくると思いますねんけど。とにかく、そないして地域が皆が交流できて仲よくやっていけるような施設として、そして、十分に活用できるような施設としてやっていただきたいなということをお願いしておきます。結構です。

○嶋田委員長 ほかにございませんか。 小林委員。

○小林委員 予算書の39ページの女性リーダー研修講師委託料についてでありますけども、議会初日、監査委員さんも職員がリーダーを目指す機運をというふうにおっしゃって少し意見をいただきましたけれども、僕もまだ議員になって浅いので、役場の中の女性の職場の雰囲気というのがまだわかりませんし、男ですので、女性の考え方も余り分かりませんので、現時点で、監査委員さんがこういうふうに意見を述べられて、現時点に役場はこういうふうに認識というか、監査委員さんの意見を改善していこうかなというふうに、どのように考えておられるのか聞かせていただきたいと思います。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 定期監査のほうでただいまのご指摘がありましたように、やはり女性職員も当然、厳しい採用試験を受けて、職員に採用されておりますので、当然、職員の一員として、当然、役場の行政の発展のために尽くしていただかねばならないんですけども、昇任試験を受けられる人数が少ないと、そういう実態がございますので。当然、これから女性もリーダーとなって、やはり管理職になっていってもらわないとあかんということもございます。今、現状は少ないということもございますので、やはりそういった意識も、職員としての意識もやはり高く持っていていただき、意識改革していくということで、特に今、昨年度から人事考課制度も導入はしておりますけれども、こういったものをここにあげさせていただいているようなリーダー研修を受けていただくことによって、やはり意識を改革していただいてやる気を起こしていただくという形で、受けていただくことによって、やっぱりこれからの斑鳩町を担っていただく職員になっていただきたいというふうに考えております。

○嶋田委員長 よろしいですか。 伴委員。

○伴委員 43ページの上から3つ目の草刈業務委託料、これは今回112万ですか、前年度は230万ほどついてたんですが、このあたりは何でこんな金額が下がったのか教えてください。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 この草刈業務でございます。100万程度下がっております。これにつきましては、緑が丘地区がございまして、その地区の緑地帯というのがございまして、それが町が管理しております。その樹木が大きくなりまして、その剪定等もその草刈業務の委託の中に入っております。前年度はそういうことで、そういうもので大きく費用を要しましたことから、100万程度多くなっております。来年度につきましては、そういう業務をもうないということで、通常の草刈業務だけにしておりますので、下がっているところでございます。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 わかりました。その次、44ページの一番下のこのグループウェアシステム機器保守業務委託料のこの内容をちょっと教えていただきたいんですが。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 このグループウェア機器の更新につきましては、この機器の更新を行うための保守の費用でございます。内容につきましては、EXスタッフサーバーというのが今役場の中で使っているスタッフでございます。そのほうのリース期間というのが切れてございますので、更新する時期に当たっているということで、23年度に更新をするということでございます。その更新のための作業の委託ということであげさせていただいているものでございます。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 何となくわかりました。それでしたら、47ページの真ん中あたりに防犯対策費の中の真ん中の防犯灯設置補助金なんですが、これは、逆に今年度は138万ほどあったものが、来年度はこれ80万ほどになってますが、なぜこういう形になっているのかを教えてください。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 昨年度につきましては、地元の補償の要望ということで、26灯分、地元の管理の防犯灯ですけれども、地元からの要望がございましたので、その分を26灯、昨年度は多かったということでございます。今年度はその地元要望では入っておりません。通常形の計上をさせていただいていると。これについては、毎年につきましては、当然要望をあげていただいているという形はないんですけれども、大体例年のベースを見る中で組ませていただいておりますので、昨年度はそれプラスその要望分、地元の補償の要

望分があったということでございますので、来年度としてはその分がございませんので減っているということでございます。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 それはわかりますねんけど、最近はずちの近所でもそのLEDのそういうような防犯灯がちらちらと見えてきてますねんけど、そのあたりの金額というのはどんな感じで、普通の通常の今までの従来の防犯灯に比べて高いと思いますねんけど、そのあたりはどんな感じに今なっておるのでしょうか。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 もう最近はLEDの防犯灯の器具もかなり安くなってまいりまして、器具の交換だけでしたら、今3万5,000円まで増額補助させていただいておりますので、LEDに交換される場合にも、3万5,000円以内で収まっておると思いますので、大体3万円弱ですかね、ぐらいで交換できますので、今回も一応LEDに交換される分として、一応8灯分は計上はさせていただいております。そのほかには通常の交換、普通の設置される場合ですね、その分を含んでおりますけど、要するに普通の蛍光灯からLEDに交換される分ですね、として8灯分は予算計上させていただいております。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 もう少しちょっと教えてほしいんですけど、これ今、8灯分とお聞きした、全体で何灯分していただいて、そのうちの8灯か、ちょっとそのあたりお願いします。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 全体で33灯の予算計上させていただいております、そのうち8灯分はLED分ということで計上させていただいております。

○嶋田委員長 いいですか。ほかにございせんか。 里川委員。

○里川委員 すいません。あと2点だけ聞かせていただきたいと思います。予算書の53ページに今度の選挙のことが書かれているんですけども、3目の県知事それから議会議員選挙費ということなんですけれども。開票立会人の報酬のところ「10」とあがっているんですけどもね、今までから一応予算でとるときは知事と県会の選挙のときに、人数これだけでもいつも初めからいないとは想定されてたんじゃないかなと思いつつも、下の町会は何人おっても10名以内という制限がありますのでね、もう10人が最高なんですけれども。町会はもちろん10ということなんですけれども、県知事・県議会議員のほうも、いつもこういうふうなとりあえずの予算計上という形でしてこられたの

かどうか。それは確認だけさせてほしいと思います。

それとですね、55ページにあります統計調査費なんですが、いろんな調査で私なんかも家へ来られて、労働力調査とかいろいろな調査を協力させていただいたこともあるんですけども、今回、経済センサス調査ということであげられているんですけども、この調査について、私、全くちょっと今まで触れたことないのでね、これは、どういう、何を目的としたどういう内容の調査なのか。これ、経済センサスになってきたら、ちょっと対象とかいうのが、どんなふうになるのかなというのがちょっとあるので、少しだけちょっと詳しく内容を教えていただけたらと思います。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 まず、開票立会人の関係でございますけど、これにつきましては公職選挙法で開票の立会人は3人以上10人以下というふうに定められております。実際には当然立候補された方からの選任で開票立会人立てられるということなんですけれども、一応最大で10人ということで予算上は計上させていただいているということでございます。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 経済センサス調査のことでございます。これにつきましては、事業所また企業の経済活動の状況調査をして、すべての産業分野において事業所企業の従業員の数とか、また会社の規模でありますとか、そういう基本的構造を調査するものでございます。それによりまして、全国にあります企業等の名簿等もつくって、それによって経済活性化の目的を果たしていこうというものでございます。これにつきましては、以前、工業統計調査というのがございました。これに代わるもので、平成21年度から始まったものでございまして、来年度はその3年目ということで、本格的な調査となるところでございます。21年度からはその基礎調査、22年度につきましても基礎調査ということで行っておりましたが、平成23年度については、本格的に調査がされる調査ということでございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 1点目はわかりました。そういう予算の組み方なんだなというふうに。

経済センサス調査というのは、今聞いてますと、事業所や企業向けの調査ということでは結構調査員の方もいろんなことがわかってないと調査って行かれへんのかなと。非常に難しいのかなと思ったりもするんですが、それと斑鳩町なんかは、割合、個人経営

的な小さなところもあるんですが。この経済センサス調査という、斑鳩町でいえば対象、調査の対象となる件数というのは大体どれぐらいになるんでしょうか、わかりますか。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 ちょっと個人経営の企業といいますか、事業所については除くということになってございます。ですので、斑鳩町で大きな企業だけということになっております。件数につきましてはまだということでございますが、また、調査員の方につきましても事前に十分にその調査の内容を研修するということを決めておりますので、現在は18人の方を予定しておりますが、その調査が始まる前にそういう研修等も行うというように聞いております。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 数はちょっとわからないということなんですが、私は、逆に、調査員が18人もおるということで、ああ、そしたら、対象となる事業所や企業というのは斑鳩町に結構あるのかなと思いつつ、今、ちょっと法人税とか、何か件数、どっかに何か出てへんかったかなとか思いつつ、その対象として見た場合は、法人税を納めていただいているような件数というふうな認識ぐらいでええのかなと思ったりするんですが、どうでしょうね。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 ここでは個人経営のということで伺っております、今申されるように法人税を納めておられる会社というふうに思っております。

○嶋田委員長 よろしいですか。ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○嶋田委員長 これをもって第2款総務費についての審査を終わります。

次に、第8款消防費について説明を求めます。 清水総務部長。

○清水総務部長 それでは、第8款消防費につきまして説明をさせていただきます。

まず、一般会計予算書の13ページをお願いいたします。第8款消防費につきましては、本年度は総額3億4,592万9,000円を計上しております。前年度と比較して消防ポンプ車の更新などによりまして1,984万8,000円、6.1%の増額となっております。失礼します。座って説明をさせていただきます。

それでは、予算書の103ページをお開きいただきたいと思います。

第1項消防費についてであります。初めに、第1日常備消防費についてであります、

西和7町で構成している西和消防組合の運営負担金として、第19節負担金補助及び交付金で2億8,767万6,000円を計上しております。前年度と比較して108万4,000円、0.4%の減額となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。

次に、103ページから104ページにかけての第2目非常備消防費についてであります。本年度は2,572万4,000円を計上しております。前年度と比較して242万4,000円、10.4%の増額となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。主な内容といたしましては、日ごろから町民の安心と安全、生命・財産を守っていただいている町消防団の活動等に要する費用と、自衛消防団の支援、また県防災ヘリコプター運営協議会及び県防災行政無線運営協議会への負担金などとなっております。

初めに、町消防団の運営では2,176万8,000円を計上しております。内訳といたしましては、第1節報酬のうち、消防団員の報酬等1,200万1,000円、第11節需用費のうち消耗品費等91万6,000円。104ページの第19節負担金補助及び交付金のうち、分団運営費などの負担金698万円などとなっております。

次に、自衛消防団の支援では、第19節負担金補助及び交付金で、自衛消防団補助金100万円を計上しております。次に、県防災ヘリコプター運営協議会及び県防災行政無線運営協議会への負担金では、第19節負担金補助及び交付金で、県防災ヘリコプター運営協議会負担金104万円、県防災行政無線運営協議会負担金22万2,000円を計上しております。

次に、104ページから105ページの第3目消防施設費についてであります。本年度は2,577万2,000円を計上しております。前年度と比較して消防ポンプ車の更新等により1,735万8,000円、206.3%の増額となっております。予算の財源内訳は県支出金で363万9,000円、その他で11万8,000円、一般財源で2,201万5,000円となっております。主な内容といたしましては、消防コミュニティセンター、法隆寺消防センターなどの消防施設に係る維持管理に要する費用と、消防施設整備に対する補助金などとなっております。消防設備等の整備促進・充実を図るため、自治会で整備される消防ホースや、器具格納箱の購入等に対して引き続き支援してまいります。また、町消防団の消防力の充実を図るため、消防第3分団、ポンプ車の更新に要する費用1,459万8,000円を計上しております。

次に、第4目水防費についてであります。水防出動等に要する費用として26万5,000円を計上しております。前年度と比較して1万9,000円、7.7%の増額となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。予算の内訳は、第1節報酬で水防手当9万6,000円。第8節報償費で水利調整報償金5万円、第11節需用費で消耗品費1万9,000円。食糧費10万円となっております。

最後に第5目災害対策費についてであります。本年度は649万2,000円を計上しております。前年度と比較して113万1,000円、21.1%の増額となっております。予算の財源内訳はすべて一般財源となっております。主な内容といたしましては、地区別防災訓練の実施、災害物資の備蓄、防災情報メールの配信などに要する費用となっております。

はじめに地区別防災訓練の実施についてであります。第11節需用費のうち、消耗品費等で8万円を計上しております。引き続き、地域における自主防災意識の高揚を図ることを目的に地区別防災訓練を実施してまいります。

次に、災害物資の備蓄では、第11節需用費の消耗品費で542万円のうち522万5,000円を計上しており、賞味期限を迎える非常食の補充、毛布の備蓄に加えまして、本年度からは避難所におけますプライバシー保護に配慮するための間仕切りや敷きマットなどの災害物資を計画的に備蓄してまいります。

次に、防災情報メールの配信では、第14節使用料及び賃借料で防災情報メールシステム使用料として前年度と同額の100万8,000円を計上しております。災害発生時における避難勧告、避難指示といった緊急情報や、生活関連情報、また平成23年度からは全国瞬時警報システムによる国民保護関係の警報についてもパソコン、携帯電話へ情報提供をする防災情報メールシステムの運用を引き続き行ってまいります。

以上で、第8款消防費につきましての説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○嶋田委員長 説明が終わりましたので、第8款消防費について質疑をお受けいたします。

木田委員。

○木田委員 104ページの19節の負担金補助及び交付金の中の一番最後のほうなんですけど、全国女性消防操法大会参加負担金ということで170万円なんですけども。女性の自衛消防団というんですか。そんなんも多分あると思いますが、これは、どこで実施され、そしてそこへ何人、これ参加される何の費用としてこれを負担しはるのかなと

いうふうに思いますのと、その次のページになるねんけども、消防費の中の15節の工事請負費の中で、防火水槽撤去工事ということで300万円予算計上されておりますねんけど、これはどこの防火水槽を撤去されるのか、その2点についてお聞かせ願いたいと思います。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 まず、全国女性消防操法大会の参加負担金ということでございますけれども、これにつきましては、23年度でございますけれども、第20回の全国女性消防操法大会というのが横浜市で開催をされます。この大会に生駒南支部、生駒4町の消防協会の生駒南支部というのがございます。そちらのほうから全国女性消防操法大会に出場するということになりましたので、これに参加する費用として各町4町が均等で170万円ずつ負担をさせていただくと。それから、県の消防協会から120万円の補助金が出ますので、合計800万円でこの大会に、練習も含めましてですけれども、参加をさせていただくということになります。

選手につきましては、各町から2名ずつ選手を出していこうということで、出場するのは一応7名が出場するということですが、補欠を入れて一応8名で構成するということで、来年の8月ごろから練習をさせていただいて、それで10月19日に、こういう日も決まっておりますけれども、横浜で大会に参加をしていくということでございます。

それから、2点目の工事請負費で防火水槽の撤去の工事の関係でございます。これにつきましては、興留1丁目地内に設置しております40トンの防火水槽でございます。これにつきましては、昭和50年ぐらい、年度はちょっとはつきりいたしません、書類等がちょっとございませぬので、年度はちょっとはつきりはしないんですけれども、土地は個人の所有の土地でございますけれども、そこに設置されている防火水槽でございますが、この土地を所有されている住民の方から土地の利用を図りたいということで撤去してほしいということのご要望がございましたので、これにつきましては、当然、この周辺の消防水利として今日まで公共性があるということでございますので、町の費用で撤去していくということでございます。その費用として3,000万円を計上させていただいたということでございます。

○嶋田委員長 木田委員。

○木田委員 負担金のほうなんですけれども、斑鳩町で、その女性消防団というんですか、その組織があるという消防については、どのぐらいの消防団というんですか、何がある

のか。そして、その中から2名ということなんですけども、どういうふうな選抜でそれ
をやっているのか、その点についてお聞かせ願いたいと思います。

○嶋田委員長 小城町長。

○小城町長 女性消防隊というのは西和消防管内で斑鳩と王寺と2つ作っております。こ
れはもう全然別個で、新たに生駒南支部として各2名ずつ、町の職員になるのか、ある
いはそういうことで今現在検討中でございますけども、おおむね町の職員は出ていただ
ければ一番有り難いなということで、今、そのご本人に確認をしながら、決定をしてい
きたいということでございます。

○嶋田委員長 ほかにございませんか。 伴委員。

○伴委員 103ページの非常備消防費ですか、これの消防団員の訓練手当というのが上
から4段目のところの、これが今年度320人で150万円強やったものが、これ58
3人、285万となっているんですが、このあたりはなぜこれだけ違うんですか。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 平成23年度につきましては、生駒郡の総合防災訓練を今度は安堵町で行
う予定をしております。それに向けては当然練習等はございます。当然、当日も参加を
させていただくということでございますので、その分の訓練手当を計上させていただ
いと、その分がふえているということでございます。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 105ページのちょうど真ん中ぐらいの19節の負担金補助及び交付金の中の
この消火栓移設修繕等工事負担金なんですけども、これもちょっと来年度10万円ほどこれ
少なくなっている。これはもう消火栓は、大体が整備されている、移設とか修繕とかも
う行われているというような形でこないなっているわけですかね。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 それにつきましては、どこの場所という特定はしておりません。もし、そ
ういう、いろんな関係で、工事の関係とかで消火栓を移設しなければならないような事
態が出てきたときに、この計上させていただいている費用の中で移設なりをさせていただ
くということで、来年、特定の箇所があるということではございませんので、当然、
あるという仮定というか、もしあった場合ということで計上させていただいていると
いうことでございます。

○嶋田委員長 よろしいですか。ほかにございませんか。 小林委員。

○小林委員 予算書の105ページの消防施設整備事業等補助金についてですけれども、この中に町のほうから各自治会に要望を聞いて、あがってきたのをもとに積算されたんでしょうけれども、この中に窃盗に遭われた自治会に対する補助金はどれぐらい見込んでおられるのか。と申しますのも、最近、ちょっと窃盗に遭ったというて、役場のほうに多分申請があげられたと思うんですけれども、そこの自治会は、毎月消防ホースをチェックされているんで、とられてから1か月以内に気づきましたけれども。うちの自治会は1年に1回ぐらいしか確認しないので、そういう状態の自治会も多いと思うんですけれども、そうなってきましては、積極的な自治会はすぐに補助金を申請されます。そうしたら、役場としてはどれぐらいで納品していただけるのか、お聞かせいただきたいと思えます。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 まず、盗難にあわれたものが入っているかどうかということなんですが、これにつきましては、今年度にご要望をあげていただいておりますので、その分の計上ということでございます。おっしゃっていただいている盗難にあったところが2自治会ほどございますが、1自治会につきましては、今年度で対応させていただきましたけれども、あと1自治会については、本年度で申請されるのか、あるいは来年度になるかちょっとわかりませんが、この予算の中には含まれておらないという状況です。ただ、そういうことでもし申請をあげてこられましたら、当然、全体の予算の中で不足が生じるかもわかりません。その場合には補正なりをさせていただくことになるかもわかりません。

納品につきましては、当然業者のほうに、当然、補助申請をあげられて、そこから業者のほうに注文されるという形になりますので、そういった場合、できるだけ早く、当然、今ない状態になっておりますので、できるだけ早く申請をあげていただいて、役場のほうの決裁のほうも速やかにさせていただいてという形で、できるだけ早くということ考えております。以上でございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 この予算そのものに関係ないんですけど、防災の関係で、1点ちょっと私、お尋ねをしたいことがあるんです。予算のときですので、今後、町にぜひ考えていただきたいというのが、先日、一般質問で耐震のことも申し上げましたけれども、あその後、テレビを家へ帰ってから見ていますと、防災シェルターというのを個人のお宅に設置で

きると。その設置がすごく簡単にできて、施工まで入れて25万円程度でできると。おひとり暮らしの女の方が、ぐらっと揺れたらそこへ入るといふ、もう自分で決めてるねんといふて、見てましたら、本当にそんなに高い値段ではなく、そういうものがあるといふことを、私も初めて知ったんですけれども、今後、いろいろな角度で、いろいろなそういう地震であつたりいろいろな防災といふ面からも、こういう物の研究といふんですか、そういうメーカーがあるらしいですのでね、またぜひメーカーなども調べていただきまして、施工まで25万円できると、ちょっと私もびっくりしましたんで、今後のまた町としても検討課題として、またちょっと調査のほうをお願いしたいと思ひます。

○嶋田委員長 ほかにございませんか。 木田委員。

○木田委員 うちの自治会でも、22年度もホースの補助申請を出してますねんけど、以前からあつたホースやつたら、大体耐用年数10年といふことで、何か中ゴムの巻いたようなホースやから10年でといふことで、ずっと取り替へてきてますねんけども。昨年、入れてもうたやつなんかやつたら、耐用年数そんな10年で何するのはいないといふふうには業者の方はおっしゃつてたんですけれども。実際の耐用年数で、使う、使わんによつて、違ひがあるけど、よっぽどでなかつたら使わない場合のほうが多いんですけれども、それ大体どの程度の耐用年数があるのか、わかつたらちょっと教えていただきたいと思ひます。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 町のほうも聞いておりますのは、大体10年ぐらゐといふのは聞いておるんですけれども。ただ、今おっしゃつたように、使い方によつては、当然長くもなるでしょうし、短くもなるといふこともあろうかと思ひますけれども。それは状況を見て点検していただく中で、傷んでおつたら替へていただくといふふうな形でやつていただけたらといふふうには思ひます。

○嶋田委員長 木田委員。

○木田委員 以前のやつはゴム引きつていふんですか、何かやつてんけど、今の何はグラスファイバーとかいふのになつてるからね、なら耐用年数みたいな、もっとそら12年どころやなしに、もっと長いこともつでと、こういうふうには言われたんやけど。実際、そんな町に申請したら、そないして補助金もらえるから、10年、10年で替へていったらええのかですよ、だけど、それではやっぱりもつたいないし、やっぱりそれは耐用年数ぎりぎりまで使つたらええことやと思ひますからね。実際、その耐用年数とい

うのはどのぐらいの、今の製品でどのぐらいかという、それをきちっと調べてですね、そして、補助金いただくときには、このホース、もう大体町やったら業者みたいな1件しか大体ないですわな。もうあんまりあちこちから入れてはらへんと思うからね。実際にその購入する場合にですな、これはある程度12年やったら12年もちますよとかいうような何で教えていただかなければ、今までどおりに、もう10年やったら10年で替えてたら、やっぱり2年間その分損するからね、そういう何もちゃんと調べて教えていただきたいなと思いますねんけど。

○嶋田委員長 乾総務課長。

○乾総務課長 また、業者のほうに今のグラスファイバー入りですか、おっしゃったホースの耐用年数については、もう一度こちらのほうで確認をさせていただきたいと思います。ただ、当然、点検していただく中で、穴が開いてるとか、傷んでいるとかいう状態がございますので、当然、その耐用年数よりも早く交換していただかないとだめだということになることもありますので、そういう形でご理解いただきたいと思います。

○嶋田委員長 ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○嶋田委員長 これをもって第8款消防費についての審査を終わります。

次に、第10款災害復旧費、第11款公債費、第12款予備費について、あわせて説明を求めます。 清水総務部長。

○清水総務部長 それでは、第10款災害復旧費、第11款公債費及び第12款予備費につきまして、あわせて説明をさせていただきます。予算書の134ページをお願いいたします。

まず初めに、第10款災害復旧費についてであります。

失礼して座って説明させていただきます。

第10款災害復旧費では、災害の発生に伴い、早急に各施設の災害復旧に対応できるよう、名目として1,000円をそれぞれの費目に計上しておりますとともに、今年度につきましては、青少年野外活動センターの災害復旧に400万円を計上しているところであります。

続きまして、136ページでございます。第11款公債費についてであります。はじめに、第1目元金についてであります。本年度は8億4,649万円を計上しております。前年度と比較しますと3,121万9,000円、3.8%の増額となっております。

す。予算の財源内訳は国庫支出金で6,860万円、県支出金で857万5,000円、合わせて7,717万5,000円、その他で2,600万4,000円、一般財源で7億4,331万1,000円となっております。増額となった主な要因につきましては、平成20年度に発行いたしましたJR法隆寺駅周辺整備事業、生き生きプラザ斑鳩建設事業の元金償還が開始となったことなどによるものであります。

次に、第2目利子では、本年度は1億8,037万3,000円を計上しております。前年度と比較して1,591万7,000円、8.1%の減額となっております。予算の財源内訳は国庫支出金で462万1,000円、県支出金で57万7,000円、合わせて519万8,000円、その他で487万5,000円、一般財源で1億7,030万円となっております。町債の活用につきましては、世代間の負担の公平を図りながら、本町の行政課題を克服していくためには、特例債であります臨時財政対策債の活用も含めまして、その活用につきましては現時点ではやむを得ないものと考えております。

ただし、後年度、必ず元利償還金が発生し、財政負担が生じることから将来にわたる財政負担を見きわめながら、その対応を図ってまいりたいと考えております。

最後に第12款予備費でございます。不時の支出に備えるため4,000万円を計上しております。

以上をもちまして、第10款災害復旧費、第11款公債費、及び第12款予備費の説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願いを申し上げます。

○嶋田委員長 説明が終わりましたので、質疑をお受けいたします。

ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○嶋田委員長 これをもって第10款災害復旧費、第11款公債費、第12款予備費についての審査を終わります。

続きまして、議案第12号 平成23年度斑鳩町大字龍田財産区特別会計予算についての審査に入ります。

理事者の説明を求めます。 清水総務部長。

○清水総務部長 それでは、議案第12号 平成23年度斑鳩町大字龍田財産区特別会計予算につきまして説明をさせていただきます。

まず、議案書を朗読いたします。

議案第12号

平成23年度斑鳩町大字龍田財産区特別会計予算について

標記について、地方自治法第211条第1項の規定により、別紙のとおり提出し、議会の議決を求めます。

平成23年2月25日提出

斑鳩町長 小城 利 重

失礼して座って説明をさせていただきます。それでは、お手元にお配りしております、平成23年度斑鳩町特別会計予算書に基づきまして、説明をさせていただきますので、特別会計予算書の37ページをお開きいただきたいと思います。

37ページ、予算総則をまず朗読をさせていただきます。

平成23年度斑鳩町大字龍田財産区特別会計予算

平成23年度斑鳩町大字龍田財産区特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ336万7,000円とする。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は「第1表 歳入歳出予算」による。

平成23年2月25日提出

斑鳩町長 小城 利 重

それでは、この特別会計の内容について説明をさせていただきます。予算書の39ページをお願いいたします。まず、歳入予算についてであります。第1款繰越金として、前年度からの繰越金336万5,000円を計上しております。次に、第2款諸収入につきましても、預金利子等で2,000円を計上しております。

続きまして、40ページの歳出予算についてであります。第1款総務費として、財産区の維持管理に要する費用43万6,000円を計上しております。次に、第2款予備費といたしまして293万1,000円を計上しております。

以上をもちまして、斑鳩町大字龍田財産区特別会計予算の説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○嶋田委員長 説明が終わりましたので、これに対する質疑をお受けいたします。

里川委員。

○里川委員 もう単純な話なんですけれども、管理費で本年度も予算があがっているんですけど、前年度の予算額からしますと、金額のほうはかなりあがっております。特殊な

会計でありまして、入りは繰越分しかございませんのであれなんです、ただ、何かをすれば歳出がふえるという、減る一方のこの会計なんですけれどもね。だから余計にやっぱり使う歳出となる金額というのはきちっと私たちもおさえていかんとあかんと思っておりますので、その本年度の予算額が前年度に比べて3倍ぐらいになっているということについて、内容についてちょっとお聞かせいただけたらと思います。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長 本年度につきましては、消耗品、光熱費等は例年と変わりなく、消耗品につきましては、池の管理に使います魚等が死んだ場合とかそういうときがございます。そういうときの消耗品費を計上しています。また光熱水費につきましては、電気代でございまして、悪臭の苦情から曝気ポンプを設置いたしまして、その運転をしております。4月から11月の何か月かを運転しておりますので、その光熱水費2万円も例年どおりでございます。変わりました点につきましては、その曝気ポンプが設置してからもう4年を経過しております、その分の、21年度に1基交換いたしております、残りの1基の分につきましては、ともに年数も経過しておりますことから、その修繕等が必要ということで10万円を計上させていただいております。その部分が今ふえているところでございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 今、話を聞いて、ちょっと2つ疑問思いました。すみません。曝気ポンプ2台あって、1台替えるのに10万で、前年度の予算より10万だけ高いぐらいじゃないでしょうか。前年度の予算の3倍ぐらいになっているからね。その今の説明でやったら、この43万6,000円はちょっとよくわからないということがひとつと、曝気ポンプ4年たつてると。21年というのも出てきましたけど、それで古くなっているということもあって、ちょっと私、頭の中整理できませんでした。ちょっときちっと教えてください。曝気ポンプ2台というのは、いつ別々に設置されたもので、耐用年数がどれぐらいで、今回取り替えないとあかんというのはいつ設置されたものでいうのを、もう少し明確にわかるようにちょっとこちらも整理できるように教えていただけますか。

それと、どうもその曝気ポンプの10万円だけではどうもこの予算額、例年よりそれプラスだけやったらこの金額にはならないのではないかと思いますので、何かもう少し足さんとあかんの違うかなと思うんですけど、その点について教えてください。

○嶋田委員長 西川企画財政課長。

○西川企画財政課長　ちょっと説明がもれておりまして、申し訳ございません。

曝気ポンプにつきましては、平成18年度に2台、当初設置しております。それから、平成21年度にその2基のうちの1台が故障いたしまして、修理を行ったところがございます。22年度につきましては、修理等もなかったということがございます。23年度につきましては、その残りの1台の修繕が必要ということで、10万円計上をしております。それと委託料につきましては、18年度に設置いたしましてから2年ごとにその水中ポンプ、水中の中に1年間ずっと使っておるわけでございますので、ポンプの水に浸かってないか、またケーブル等のチェック等をするために2年ごとにその分解、ポンプを引き上げまして、またポンプのベアリングでありますとか、そのケーブルの状況を分解いたしまして整備しているところがございます。その費用として29万1,000円、今回計上させていただいたところがございます。それによりましてふえているものです。

○嶋田委員長　里川委員。

○里川委員　確か、曝気ポンプ2台買ったときもそこその金額したなと思ってたんですけども、修繕というのも結構、これあんまりもたない。18年に買ったやつでも平成21年に修繕して、もう1台も23年にまた修繕せなあかんと。そやけど、その間にも2年ごとに点検をしてもらうのにも29万1,000円と。割り方高く掛かるんだなということちょっと痛感いたしましたけれども。ここのこういうふうにして、一応財産区財産で最初にも言いましたけど、だんだん減っていくだけの会計なんですけれども、いずれはなくなってしまふ、こんなして使うばかりですのでね。こういうものですので、今後のやっぱり検討課題というのも町のほう、きちっと持っていていただくかとは思いますが、水利はこの地元ではどうなんでしょうか。やっぱりこの池は利用されているんでしょうか。再度確認だけさせておいてください。

○嶋田委員長　西川企画財政課長。

○西川企画財政課長　下司田池の水利につきましては、現在4名の方が4反の田を賄う水利ということでもっておられます。今、現在も休耕状態になっておりまして、1件だけはその水を使っておやりになっているということで把握はしております。

○嶋田委員長　よろしいですか。ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○嶋田委員長　ないようですので、大字龍田財産区特別会計に対する質疑を終結いたします。

これをもって、総務部・会計室所管に係る予算についての審査を終わります。

理事者入れ替えのため暫時休憩いたします。

(午後 2 時 0 5 分 休憩)

(午後 2 時 0 9 分 再開)

○嶋田委員長 再開いたします。

それでは、住民生活部所管に係る予算審査を行います。

まず初めに、第 2 款総務費について説明を求めます。 栗本環境対策課長。

○栗本環境対策課長 それでは、第 2 款総務費のうち、住民生活部住民課・環境対策課が所管いたします平成 23 年度予算の概要につきまして、ご説明を申し上げます。

失礼して、着席してご説明をさせていただきます。

予算書の 39 ページをお開きいただきたいと思います。第 2 款総務費、第 1 項総務管理費、第 1 目一般管理費のうち、第 1 3 節委託料の無料法律相談委託料についてであります。137 万 6,000 円を計上しております。奈良弁護士会に委託を行う中で、引き続き、年 36 回開設し、住民の方々が抱えておられる諸問題について、弁護士によります問題解決について対応することとしており、その必要経費として 137 万 6,000 円を計上しております。

次に、46 ページをご覧くださいと思います。第 1 項総務管理費、第 8 目交通安全対策費であります。交通安全施設、交通安全指導など全般につきましては、都市建設部建設課で所管をしておりますが、自転車等の放置防止に関する事業につきましては、環境対策課が所管しているところであります。環境対策課としての予算額につきましては、第 1 1 節需用費のうち 3 万円、第 1 3 節の委託料 44 万 5,000 円と、合わせまして 47 万 5,000 円であります。本年度におきましても、JR 法隆寺駅周辺の放置防止禁止区域内におきまして、放置防止指導員を配置し、町民の良好な生活環境を確保し、町の美観を維持するとともに、町民生活の安全の保持を図ることとしております。

次に、同じく 46 ページから 47 ページにかけて、第 9 目自転車等駐車場運営費であります。本年度予算額は 1,161 万円を計上しております。前年度と比較して、50 万 7,000 円、4.2%の減となっております。予算の財源内訳といたしましては、すべてその他であります。自転車等駐車場のトイレにつきまして、平成 22 年度におきまして、公共下水道への接続工事を実施しており、その工事費分が減額の主な要因であります。自転車等駐車場の運営につきましては、適切な施設の維持管理に努めるととも

に、利用者の利便性を図りながら、引き続きその運営を行っております。

次に51ページから52ページにかけまして、第3項、戸籍住民基本台帳費についてであります。51ページからの、第1目戸籍住民基本台帳費で、本年度予算額は6,810万4,000円を計上しております。前年度と比較いたしまして1,683万7,000円、32.8%の増となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金25万9,000円、県支出金3万5,000円、あわせて29万4,000円、その他で1,035万4,000円、一般財源5,745万6,000円となっております。主な予算の内容につきましては、住民情報システムの改修となっております。住民基本台帳法の一部改正により外国人住民を住民基本台帳法の適用対象に加え、外国人住民の利便の増進及び市町村等の行政の合理化を図るため、平成23年度におきまして、所要のシステム改修を行うものであります。その改修経費として2,000万円を計上しております。そのほか、住民記録や戸籍システム等の機器の委託料465万円、電算ソフト等の使用料及び賃借料1,242万4,000円等となっております。窓口業務にあたりましては、親切・丁寧な対応を心がけるとともに、個人情報取り扱いには細心の注意を払いながら、万全を期して事務の遂行に当たっているところであります。また、本人確認を徹底して行うなど、虚偽申請の未然防止にも努めております。また、町公共施設である西公民館、東公民館、生き生きプラザ斑鳩の3施設で行っております住民票の写し等の交付について、住民の皆様の利便性を図るため、引き続き実施してまいります。

以上、第2款総務費のうち、住民生活部の所管に係ります予算の説明とさせていただきます。何とぞ、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。以上です。

○嶋田委員長 説明が終わりましたので、第2款総務費について質疑をお受けいたします。

里川委員。

○里川委員 予算書の47ページ、委託料の自転車等駐車場運營業務委託料なのですが、これにつきましては、以前から斑鳩町の身体障害者協会のほうに委託をお願いしてきて、北と南とあったけれども、南のほうがなくなることについての懸念を協会のほうと十分ちゃんと説明してもらわんとあかんねと、減るからということ言ってました。その後、そういうこともあった上に、斑鳩町の臨時職員さんの時間給などをカットするという動きの中で、こちらのほうへの委託料も下げるといようなこともありました。けれども、議会のほうからもいろいろ声をあげさせていただく中で、臨時職員さんの賃金、できるだけ元に戻していこうということで、町のほうも努力していただいた結果ですね、この

自転車の駐車場の委託料につきましてもそういう連携した動きになっているのかどうかということが少し気になりますので、ここの考え方についてお尋ねしておきたいと思えます。

○嶋田委員長 栗本環境対策課長。

○栗本環境対策課長 自転車と駐車場の運營業務委託料についてのご質問であります。

委託料のほう、積算につきましては、時間単価を750円に設定して積算をしております。これにつきましては、平成19年度から変わりなく750円を基礎単価として算出しているところであります。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 確か、でも、その前は時間給750円ではなかったのではないかなど。斑鳩町の臨時職員さんの時間給にあわせたような状態ではなかったかなど。いったん10%カットしたという中ででも、いろんな議論があって、給食調理員さんの時間給だとか、いろんな時間給の方の分を、その1割カットはきついということで、いろいろ声があって、いったん750円にもなりましたけれども、今般さらに引き上げという形を町のほうは決断していただいているということになったと思うんですね。ですから、この業務委託につきましても、障がい者の皆さん方のやっぱり生活もあります。働く意欲もあります。時間給もできるだけ引き上げていただいた形で、そして、南口がなくなっている分、できるだけローテーションをしながら、より多くの方に働いてもらえるというような対策をとっていただけたらなというふうには思っているんですが、一応、23年度中はもうこれまでどおりの金額でいくという方針なんだという、そういう決定をしたということで理解しておいてよろしいですか。

○嶋田委員長 小城町長。

○小城町長 今、私が当初はこの身体障がい者をお願いをしたというのは、特に斑鳩町に福島さんという方がおられて、やはりこういう駐輪場の関係については、身体障がい者にやっぱり自主的にやっていただくような体制づくりをしてほしいというご要望からやってきたんですけど、最近、特にその身体障がい者さんが、9人体制で回っていたやつが、もう9人がおられなくなって、5人体制で、この間いっぺんにですね、役場へ、こんな我々大変やということで、何人か補強してくれないかということで、今、シルバー人材をお願いしてですね、4人か5人のローテーションを組んでやって、現場の方は非常に喜ばれたと。辛抱してきたんやと。辛抱してたら、我々がもう休みなしやから、

とても続かないということで、先だっては私のほうへこうしてシルバー人材から派遣していただいて有り難いことやということですから。今後、今、身体障がい者の会長さんがその任に当たっておられた方が、ちょっと病気で倒れられて入院されたものですから、そういうことも影響していることも事実ですし、今後、その会長が回復するか、あるいは副会長の方にご相談申し上げて、23年度はだいたい5人の中で雇うと、残りはやっぱりシルバー人材にお願いするのか、そういうことも確認の上で進めていきたいと考えています。750円は限定的に750円ということでご了解をいただいているということで750円でいきたいと。その後の情勢いかんによっては、やっぱり値上げをしてあげることも考えなければいけませんけれども、平成23年度は750円ということです。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 今のお話を聞かせていただきましてね、余計にシルバーさんをお願いするにしろ、シルバーさんもほかの仕事の兼ね合いもあるだろうし、シルバーさんも自分たちの努力、働く努力をもって、補助金が減った分も頑張っていたかなあかんというような議論もやってきました。でも、働いてもらうにはもらうなりの賃金の確保も必要だろうし、今、町長も話し合いの中でということもおっしゃられましたので、他の仕事との、シルバーさんそのものの他の仕事についておられる方との兼ね合いもあるだろうと思いますので、十分に検討していただきまして、気持ちよく、やっぱり町の施設で働いていただくのに気持ちよく住民サービスをしていただけるように体制を整えていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○嶋田委員長 ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○嶋田委員長 これをもって第2款総務費についての審査を終わります。

次に、第3款民生費について説明を求めます。 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 第3款民生費につきましてご説明申し上げます。

それでは、座って説明させていただきます。

第3款民生費につきましては、本年度は24億7,928万8,000円の計上となっております。前年度の予算額と比較して、1億746万1,000円、4.5%の増となっております。主な増額の要因といたしましては、子ども手当や扶助費等の増でございます。それでは、各科目ごとにご説明申し上げます。

56ページから58ページで、第1項社会福祉費の第1目社会福祉総務費であります。

本年度は3億2,854万7,000円を計上しております。前年度と比較して、2,077万4,000円、5.9%の減となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金で929万6,000円、県支出金で7,422万4,000円、合わせて8,352万円、その他で26万9,000円、一般財源で2億4,475万8,000円となっております。主なものは、職員に係ります人件費、国民健康保険事業特別会計等への繰出金及び社会福祉協議会等への補助金であります。

また、57ページから58ページの第28節繰出金では、国民健康保険事業特別会計に対する繰出金として、基盤安定繰出金、職員給与費等繰出金、出産育児一時金繰出金、財政安定化支援事業繰出金など制度上の負担割合に応じて支援する法定繰出金1億9,567万7,000円のほか、その他一般会計繰出金として、平成21年度における介護納付金に係る赤字分を支援する法定外繰出金1,207万4,000円、あわせて2億775万1,000円を計上しております。

次に、58ページ、第2目国民年金事務取扱費であります。本年度は、880万4,000円を計上しております。前年度と比較して、38万1,000円、4.1%の減となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金で583万5,000円、一般財源で296万9,000円となっております。職員の人件費と電算ソフト使用料などを計上しております。国からの委任を受けて、第1号被保険者の資格関係届や保険料減免などの手続きのほか、年金の受給や納付期間に関する窓口業務などに努めております。

次に58ページから59ページ、第3目老人福祉費であります。本年度予算額は7,078万9,000円を計上しております。前年度予算額と比較して330万6,000円、4.9%の増となっております。予算の財源内訳は、県支出金で106万円、その他299万3,000円、一般財源で6,673万6,000円となっております。これは、介護保険事業計画・高齢者福祉計画作成業務委託料や在宅ねたきり老人介護手当の支給人数がふえたことが主な要因でございます。

58ページの第13節委託料であります。282万7,000円を計上しております。平成23年度は第5期介護保険事業計画・高齢者福祉計画を策定する年度でございますので、作成業務委託料として180万円を計上しております。

次に第19節負担金補助及び交付金では、3,703万1,000円を計上しております。主なものは三室園組合への負担金、斑鳩町老人クラブ連合会への助成を計上させていただいております。

次に、第20節の扶助費では、2,922万5,000円を計上しております。養護老人ホームへの施設入所にかかります措置費1,152万7,000円のほか、在宅ねたきり老人介護手当支給では561万5,000円を計上しております。ひとり暮らし老人等日常生活用具給付事業及び訪問理美容サービス事業、愛の訪問サービス事業、高齢者優待券交付事業など、引き続き高齢福祉の事業として取り組んでまいります。

次に、59ページから60ページの第4目老人憩の家運営費であります。本年度予算額は1,783万9,000円を計上しており、前年度予算額と比較しまして33万5,000円、1.8%の減であります。予算の財源内訳は、その他で3万3,000円、一般財源で1,780万6,000円となっております。老人憩の家につきましては、今後とも高齢者の憩の場やレクリエーションの場として利用していただけるよう努めてまいりたいと考えております。

次に、60ページから61ページの第5目医療対策費であります。本年度は1億6,472万7,000円を計上しております。前年度と比較して1,169万7,000円、7.6%の増となっております。予算の財源内訳は、県支出金で4,527万2,000円、その他で68万7,000円、一般財源で1億1,876万8,000円となっております。医療費助成につきましては、県の補助を受けながら、高齢者、子ども、障がいのある人、母子家庭など、それぞれの対象者に対して、医療費の自己負担分を助成し、経済的な負担の軽減と受診機会の確保に努めております。子ども医療費の助成では、平成21年度において、その対象を中学生までに拡大するとともに、所得制限を撤廃し、一部負担なしで実施しているところであり、本年度は、前年度と比較して、500万円増の8,500万円を計上しております。また、心身障害者医療費の助成、重度心身障害者老人等医療費の助成では、県基準に加え、身体障害者手帳3級、療育手帳B保持者まで拡大した上で、一部負担なしで実施しております。その他の福祉医療制度におきましても、県基準と同じであっても一部負担なしで助成を行っているところであり、これまでの助成件数、助成単価等の実績を勘案して、予算を計上しております。

次に、61ページから62ページにかけての第6目人権対策費であります。本年度予算額は73万9,000円を計上しており、前年度予算額と比較して4万2,000円、5.4%の減であります。予算の財源内訳は、県支出金で22万2,000円、一般財源で51万7,000円となっております。今なお、部落差別をはじめ、女性や高齢者、障がい者、外国人等に対するさまざまな差別や人権侵害が根強く残っており、特に最近

では、児童虐待、高齢者に対する事件が多発しているところであります。引き続きあらゆる差別の撤廃や人権侵害に対するなお一層の取り組みを行ってまいりたいと考えております。

次に、62ページの第7目あゆみの家管理運営費であります。本年度予算額は42万円を計上しており、前年度予算額と比較して1万7,000円、3.9%の減であります。予算の財源内訳は、その他で2,000円、一般財源で41万8,000円となっております。

次に、62ページから65ページの第8目障害福祉費であります。本年度予算額は3億2,974万8,000円を計上しております。前年度予算額と比較して1,820万6,000円、5.8%の増となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金で1億3,612万4,000円、県支出金で6,867万円、合わせて2億479万4,000円、その他で627万2,000円、一般財源で1億1,868万2,000円となっております。これは、自立支援法に基づくサービスの利用者が増加したことにより、障害者介護給付・訓練等給付費が増加したことが主な要因でございます。

また、63ページの第13節の委託料では、4,163万4,000円を計上しております。障がい者の日中の創作的活動や生産活動の機会を提供し、社会との交流促進等を行う地域活動支援センター事業や、障がい者の外出を支援する障害者移動支援事業、障がい者やその家族からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行う障害者相談支援事業、及び高齢者や障がい者団体に対するリフト付バスの運行事業の委託料が主なものであります。また、平成21年3月に策定した斑鳩町障害福祉計画の見直しを行うことから、その業務委託料70万円を計上しております。

次に、64ページの第19節負担金補助及び交付金では、229万6,000円を計上しております。地域活動支援センターの運営に対します他市町村への負担金や王寺周辺広域休日応急診療施設組合に設置しております自立支援認定審査会に要します費用の当町負担金、及び、西和7町で設置しております西和7町障害者自立支援協議会の当町負担金が主なものであります。また、昨年度奈良市から転入してこられた方が、従前から利用されてきた奈良市の精神障がい者小規模作業所を、当町転入後も引き続いて利用されるため、奈良市への負担金22万8,000円も、今年度から計上しております。

次に64ページの下の方から65ページにかけての第20節の扶助費であります。2億7,821万4,000円を計上しております。居宅介護や施設入所支援などのサー

ビス利用者に対する介護給付・訓練等給付費の給付が主なものでありますが、サービスの利用者の増などにより、昨年度増で予算を計上しております。その他といたしまして、重度心身障がい者や重度心身障がい児を看護する者に対して支給される重度心身障害者等福祉年金や腎臓疾患による人工透析や心臓疾患によるペースメーカー植え込み手術等にかかる更生医療費の給付などがございます。引き続き制度内容の周知等、必要な情報提供を行うとともに、さまざまな相談に対応しながら、障がい者の自立支援、社会参加の促進・支援に努めてまいります。

次に、65ページから66ページの第9目ふれあい交流センターいきいきの里管理運営事業費であります。本年度予算額は3,407万3,000円を計上しており、前年度予算額と比較して47万2,000円、1.4%の減であります。予算の財源内訳は、その他で631万3,000円、一般財源で2,776万円となっております。これは、臨時職員に係ります賃金と施設の管理運営に要します経費が主なものであります。料金体系の見直しや敬老記念品として、ふれあい交流センター入館券の配布により、最近では利用者の約8割が町民の皆様となっております。

次に、66ページの第10目介護保険事業繰出費であります。本年度予算額は2億4,813万5,000円を計上しており、前年度予算額と比較して21万5,000円、0.1%の増となっております。予算の財源内訳は、すべて一般財源となっております。この増の要因としましては、介護給付費繰出金の増によるものでございます。本費目から介護保険事業特別会計に繰り出すもので、保険給付の12.5%に当たります介護給付費繰出金1億9,832万2,000円のほか、職員給与費及び介護保険事務費にかかります繰出金、地域支援事業費にかかります繰出金であります。

次に、66ページから67ページの第11目総合保健福祉会館管理運営費であります。本年度予算額は3,324万円を計上しており、前年度予算額と比較しまして、60万7,000円、1.9%の増であります。予算の財源内訳は、その他で95万4,000円、一般財源で3,228万6,000円となっております。これは、管理運営に要します経費が主なものであります。開館して2年半がたち、保健・福祉の拠点として、小さな子どもからお年寄りまで多くの皆さまにご利用いただいております。生き生きプラザ斑鳩の敷地内の木々や草花が来館する方々に心地よく感じられるよう、地域住民の方々にガーデニングボランティアとして登録していただき、植栽管理をしていただいております。新年度は、植栽管理の知識を深めていただくため、講習会の講師謝金等を予

算計上しております。今後も、この施設が町民の皆様に気軽にご利用いただける施設として、その運営に努めてまいりたいと考えております。

次に、67ページから68ページの第12目後期高齢者医療費であります。本年度は、2億6,496万1,000円を計上しております。前年度と比較して、3,053万2,000円、13.0%の増となっております。予算の財源内訳は、県支出金で2,662万3,000円、一般財源で2億3,833万8,000円となっております。また、増額となった要因につきましては、奈良県後期高齢者医療広域連合から示された療養給付費負担金の増によるものであります。後期高齢者医療制度の医療給付に要する費用に係る町の法定負担分を広域連合に納付するほか、この制度に係る町の事務費用、広域連合の運営にかかる費用の負担、そして低所得者に対する保険料の軽減措置に係る補てん分を後期高齢者医療特別会計に繰り出すものとなっております。

次に、68ページの第13目旧老人保健医療給付費であります。老人保健特別会計につきましては、法令の規定によりまして、平成22年度をもって廃止されますが、なお整理が必要なものも想定されることから、平成23年度以降は一般会計に引き継ぐこととされております。このため、新たに予算計上させていただいたものであり、本年度は、医療給付費や医療費支給費などの費用54万円を計上しております。予算の財源内訳は、国庫支出金で17万1,000円、県支出金で4万2,000円、合わせて21万3,000円、その他で27万3,000円、一般財源で5万4,000円となっております。

続きまして、68ページから70ページの第2項児童福祉費、第1目児童福祉総務費であります。本年度予算額は2,043万1,000円を計上しており、前年度予算額と比較して252万5,000円、11.0%の減となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金で219万5,000円、県支出金で167万円5,000円、あわせて387万円、その他で10万円、一般財源で1,646万1,000円となっております。主な減額の要因といたしましては、人件費にかかる経費の減額分でございます。平成23年度からの新規事業といたしまして、ファミリーサポートセンター事業実施に向け、子育てサポーターの養成が必要であることから、子育てサポーター養成講座の実施及び夏休み等の学校における長期休暇において、利用者の対象年齢を3歳から5歳へ拡大する「つどいの広場事業」にかかる経費を新たに計上しております。

次に、70ページ上の方から72ページの第2目保育園費であります。本年度予算額は前年度とほぼ同額の3億1,521万6,000円を計上しております。予算の財源内

訳は、国庫支出金で1,714万円、県支出金で803万2,000円、合わせて2,517万2,000円、その他で9,947万円、一般財源で1億9,057万4,000円となっております。これは、職員に係ります人件費及び臨時保育士の賃金及び広域入所委託料が主な経費であります。2月1日現在での入園児童数であります。たつた保育園137名、あわ保育園182名の合計319名となっております。

保育園では、保護者の仕事と子育ての両立を支援するため、乳児保育や延長保育、一時預かりなどの特別保育事業を取り入れるとともに、電話相談や園庭開放、家庭支援講座等を通して、地域での子育て支援事業の充実にも努めております。また、71ページの第13節の委託料では、5,455万3,000円を計上しており、勤務時間、勤務先等の都合で他市町村の保育園に委託する広域入所委託料が主なものでございますが、保育園の管理に必要な各種の保守点検業務等の委託料も計上しております。

次に、72ページ下のほうから73ページの第3目学童保育運営費であります。本年度予算額は2,111万3,000円を計上しており、前年度予算額と比較して34万1,000円、1.6%の減となっております。予算の財源内訳は、県支出金で577万1,000円、その他で1,245万7,000円、一般財源で288万5,000円となっております。学童保育室につきましては、共働き家庭の一般化、就労形態の変化により、現在、多くの児童に利用していただいております。平日は、放課後から午後6時30分まで、土曜日や夏休み等の学校休業日は午前7時45分から午後6時30分まで開室し、保護者の皆さまのニーズに対応しながら、児童の健全育成に努めております。

次に、73ページの第4目子ども手当支給事業費であります。本年度予算額は6億1,996万4,000円を計上しており、前年度予算額と比較して1億202万8,000円、19.7%の増となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金で4億9,542万7,000円、県支出金で6,426万7,000円、合わせて5億5,969万4,000円、一般財源で6,027万円となっております。子ども手当は、次代の社会を担う子どもの育ちを社会全体で支援する観点から平成22年度に創設されました事業であります。0歳から中学校修了前の子どもを対象に、平成23年度は0歳から3歳未満の子ども1人につき月額2万円を、また3歳から中学校修了前の子ども1人につき月額1万3,000円を、受給者の所得制限を設けずに支給するものであります。なお、児童手当費につきましては、廃目となっております。

次に、74ページの第3項災害救助費についてであります。本年度予算額は2,0

00円を計上いたしました。万が一の災害の発生に備え、早急な対応が図れるように名目予算となっております。

以上で、第3款民生費のご説明とさせていただきます。何とぞ、よろしくご審議を賜りますようお願い申し上げます。

○嶋田委員長 説明が終わりました。

15時05分まで休憩いたします。

(午後 2時45分 休憩)

(午後 3時05分 再開)

○嶋田委員長 再開いたします。

それでは、第3款民生費について質疑をお受けいたします。 伴委員。

○伴委員 59ページの真ん中の扶助費のひとり暮らし老人等日常生活用具給付事業なんですけど、これは何を給付していただけるのですかな。ちょっと教えてください。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 主なものでは火災警報装置、それとか電磁調理器などでございます。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 火災はわかりますが、電磁調理器、ああ、まあ火災の関係で、それでいただいているということですね。わかりました。

その次に、62ページの障害福祉費の一番上の報酬の障害者福祉計画推進協議会報酬とあるんですが、本年度は6人で3万円だと。それがこの予算では5人で7万5,000円になってますが、これは何ですかやろ。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 平成23年度に、24年度からの障害福祉計画の新しい策定がございます。その関係の審議をしていただくということで、回数がふえております。それで予算が金額的にはふえています。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 今のお話でしたら、何でこれ次年度は1人ふやされたのか、ちょっとそのあたりもう少しお願いします。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 人数的に減らしたということではなくて、公務員の方とかで支給しない方がおられるということで支給人数については減っているような形でございます。

○嶋田委員長 伴委員。

○伴委員 わかりました。それでは、次、69ページのちょうど真ん中あたりの第8節報償費の託児ボランティア礼金といいますか、これが3万6,000円やったものが17万7,000円に。これはボランティアと書いてあるが、これボランティアでも有償です。ちょっとこれ金額ぐっとふえてますねんけど、そのあたりをお願いします。

○嶋田委員長 清水福祉課参事。

○清水福祉課参事 昨年と比べまして、今年度17万7,000円に予算計上させていただいております。その内訳でございますが、今年度からファミリーサポートセンターの養成講座ということで、その分の講師謝金が9万円。それを組んでおります。それと、あとは子育て講座の中で8万7,000円で、合計17万7,000円となっており、去年よりはあがっているということでございます。

○嶋田委員長 ほかにございせんか。 小林委員。

○小林委員 予算書の59ページの老人クラブ助成金についてですけれども、毎年少しずつ微妙に補助金減ってますけれども、県のほうがどう、県のほうの積算根拠の何が数字が変わって毎年このようにちょっとずつ減っているのか、ちょっと教えていただきたいと思っております。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 県の積算が変わったということではなくて、老人クラブのほうの会員さんの人数とか、クラブ数の関係で結果的に掛け算をしますんで、それで減っておるということでございます。

○嶋田委員長 ほかにございせんか。 里川委員。

○里川委員 何点かあるんですけど、予算書の順にいきたいと思っております。まず、56ページに一般職のお給料ということであげておられるのが11人。昨年の予算では12名となっておりました。今、福祉課のほうも臨時職員が採用をかなりされている中で、現状の人数で予算書をあげられたのかなと思っておるんですが、かといって、子ども手当の関係でも昨年臨時職員を入れておられましたけれども、その子ども手当のところも臨時職員の賃金がもうあげられていないという状況の中で、体制的なものが非常に心配だなということをおもっております。障がい者自立支援法もちょっとずつ変わってきている。介護保険もいよいよ23年度検討を加えられて、その次の年度で計画がまた変わってくる。そういった中で、福祉課の課題もたくさんあると思っておるんです。

が、そういう職員の減のままいこうということで、予算書を見る中ではこうなっている。これにつきましては、どうなのでしょう。あくまでも現状の数字をあげたということなのか。いやいや、やはりこういう体制でいこうというふうに考えているのか。その辺についての考え方、そして、臨時職員さんの考え方、こういったものをちょっと体制的に私はやっぱりちょっときちっと、非常に重要な場所ですのでね、課ですので、その辺お尋ねしておきたいなと思います。

○嶋田委員長 清水総務部長。

○清水総務部長 ご存じのように、この新年度の予算を組ませていただくときにはですね、現状、予算の積算の時点の現状の人数を入れさせていただいております。現状としては、予算時のときよりも若干1名減っているということでございますけども、予算執行していく中で、また平成23年度4月1日現在の人員配置を行う中で、そういったことも考慮しながらどうやっていくか、ただ、全体の職員数も減っていく中で、どこにどういう配分をしていくかということについては、今後の検討課題というふうに考えていただきたいと思います。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 ついでですので、この場で言わせていただきますけれども、ベテランの職員の方が今年度でお辞めになるという、そして、また新しい採用が6名。そういう中であって、非常に人事の配置というのは十分に検討していただいて、配置をしていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、61ページの人権対策費なんですけど、実は、これ私、ちょっと気になっておることがありまして、東憩の家の看板が立ってるんですね、ここに憩の家に立っている看板が毎月11日は人権を確かめあう日ということが書かれた看板なんですけど、斑鳩町と斑鳩町教育委員会と、そして斑鳩同和問題啓発活動推進本部と書かれたものが置いてあります。看板そのものが古いんですけども、古い看板の割には、余り汚いこともなく、ですからそのまま置かれているのかなと思うんですけども、そういう名前の推進本部は今ないと思いますので、できたらその看板を書きかえるなり、人権を確かめあう日というのを強調するためには別の何かものを考えていただいて、やはり現状に見合った形で設備をしていただきたいなというふうに思うんですけど、それについてはいかがでしょうか。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 すみません。名称のほうが変わってなかったみたいで、変更させていただきたいと思います。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 そしたら、現状にあった形で、正確に、置くのであれば正確な物を置いていただきたいですし、もっと毎月11日、人権を確かめあう日ということをもうちょっと強調したければもっと大きく書くなり、工夫をしていただけたらということをお願いしておきます。

それと、65ページには、ふれあい交流センターいきいきの里の管理運営業務の内容について予算化されております。私は、この冬よく利用させていただいているんですが、以前にも議会から声が上がっていたかと思うんですけども、シャワーとか蛇口の温度がなかなか安定しないというのが感じております、私も利用する中で。最初びっくりするほど熱かったり、ちょっと温度下げたら、びっくりするほどちょっとぬるくなったりとかいうこともあったり、そして、同じ温度のまま使っていても最初熱いねんけど、だんだんぬるくなるとかね。その辺でどういうシステムになっているのかなど。サーモスタットとかが働くんやと思うんですけどね、どういうシステムになっているのかも私もよくわからないので、以前にもそういう声もあったことから、その後、町のほうでどのように点検とかやっていたかというのかなということもあって、ちょっと最近よく利用しているもので気になってます。やっぱり利用者の方が利用しやすいように。子どもさんも掛かって「熱い熱い」ってよそのお子さんでしたけどね、「熱い熱い」とかいうて、何かお母さんに掛けられて走ってやったからね。危ないですし。ちょっとその辺で気になりますのでお尋ねをまずそれをしておきたいと思います。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 施設のほう建ちまして、そこそこ年数がたっておりますので、利用者の方からそういうお声を聞いてます。それを聞いた時点でこちらとしたり、そのそれぞれのカランの中に温度センサーがございますので、その分を替えて対応しております。しかし、今、委員がおっしゃったようにそういうこともあるようでしたら、再度、職員のほうに指示しまして、再度、職員で全部確認をして替えていきたいと思います。また、利用者の方からそういう声があれば、できるだけ早く替えていくというような形で持っていきたいと思います。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 私も今のお話で、ひとつひとつにどうもセンサーがついているようで、私のイメージでは何か全体でコントロールしているのかなと。お客さんがようけおったら、余計ややこしなるのかなとか、最初はそう思ってたんですけど。私、いつも終わり方に行くので、ひとりで入っているのにそんなんやから、ちょっとどうなっているのかなと思ったんですけども。ひとつひとつのセンサーという形でよろしいんですね。わかりました。そしたら、また点検をしていただけたら。私も利用する中で、この箇所というようなこともまた現場でも申し上げたいと思います。

それと、この管理運営につきまして、委託料という形で、清掃やとかいろいろあがってますし、また、臨時職員さんの賃金ということでここあがっているんですね。施設用務の業務を委託していると。ちょっと複雑な感じで、この管理運営の費用があがっているような気がするんですけども、実際、晩行きましても、3人いはったり4人いはったりするんです、人がね。これ、どうなんでしょうか。臨時職員さん直接採用して、仕事に就いていただいているのか。それで、何かの業務に関しては、シルバーさんのほうへ委託をしているとか、何か、そういうの何かあるんですかね。この体制というのか、どういうふうに委託したり、また臨時職員さんの賃金をあげておられるのか、内容についてちょっとお尋ねしておきたいなというふうに思います。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 基本的には、町が採用した臨時職員5名で3人体制で運営しております。ただ、繁忙期、忙しい時期もありますので、そういうときとか、それとか休館をしているときの掃除の関係とかで、シルバーに委託していると。もうひとつはシルバーに委託しておりますのは、職員で有給休暇がございますので、そのときの代替要員という形の分につきましてはシルバーに委託しております。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 そしたら、臨時職員さんは5名。5名だけれども、休暇とかの関係の中では、シルバーさんにもお願いすることがあると。そして、じゃあ、清掃業務の委託とか、施設用務業務委託とか、この名前難しい、舌噛みそうですけど、これらの委託というのはどういうふうにされているんですか。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 予算書でいいますと66ページの下から2つ目ですね。施設用務業務委託、これは先ほど言いました臨時職員のかわりのシルバーへの委託がこれになります。

それ以外は通常清掃も一般の保守も含めて、施設管理運営の委託になります。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 そしたら、65ページにある1番最初の清掃業務の委託もシルバーさんということですか。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 これは一般の清掃業者に対する委託でございます。その清掃に対して、業者委託しているということです。これはシルバーとは関係ないです。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 ちょっとわかりにくいので、清掃かて浴槽の清掃やら館内の清掃やら館外の清掃やら、何かあるのかなと思うんですけど、私の質問の仕方も悪いのかもわかりませんが、できましたら、清掃にもいろいろあるのかなと思うんですけど。その辺もうちょっとわかるように言っていただけたら助かります。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 65ページの委託料の一番上の清掃業務につきましては、窓の掃除とか床の掃除、通常毎日いてるんじゃないかと、定期的に清掃業者さんに対して、例えば斑鳩町庁舎でもやっておりますけども、そういう形で委託しておるとのことでございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 その点はわかりました。あと、ちょっと気になっていることがあります。先ほどの説明の中で、予算書の71ページの児童福祉費のところでは、2月1日現在あわ、たつたで、園児がこれだけいるというようなこともあわせて説明のほうもしていただいたのですが、この予算書に基づきましてですね、私のほうも去年もたつた保育園がスタートからえらい人数いてはったんですけども、来年度、23年度のほうの受付はもうやってはると思いますので、もう終わっていると思いますのでね。この際ですので、予算を見る中で、あわ保育園、たつた保育園、それと最近ふえてきているこの広域入所、これらの3つに、斑鳩町で0、1、2、3、4、5と、これ年齢6段階に分けて、この保育所というのは預かるわけなんですけれども、それぞれの人数、どのように今現在、受け付けておられるのかお尋ねをして、子どもさんをお預けになる状況というのを私自身もつかんでおきたいなど。それとともに、私は、何でわざわざ1歳ずつ人数聞くかというたら、前回、前の厚生委員会で申し上げましたが、県の基準、交付金がおりてくる基準の中で、1歳児と2歳児には去年は差があったんですけど、21年度では1歳児は保

育士1人に対して5人と。2歳児は1人に対して6人やったのが、22年度からでしたかね、1歳児も2歳児と同じく1対6になったと。そういう基準で県のほうが示してきたということをお聞きしておりましたけれども、その関係もあって、入ってきはる人数、そしてまた保育士はどのようなふうに対応されるのかということについて、非常に気になりますので、ですから、それぞれの年齢の子どもさんの数と、そして斑鳩町が現在考えている保育士の充当、どのようなふうに対応しようとしているのかということのを、この際ですので確認をさせていただきたいと思います。

○嶋田委員長 清水福祉課参事。

○清水福祉課参事 今回の委員の質問でございますが、まず、あわ、たつた、そして広域それぞれの23年度の申込数ということでまず答えさせていただきます。あわ保育園につきましては、合計186名でございます。その中で、年齢別に申しますと0歳児が7人、1歳30人、2歳35人、3歳50人、4歳36人、5歳28名で合計186名。そして、たつた保育園で、まず合計が115名。年齢別で、0歳児で1名、1歳16名、2歳で22名、3歳で24名、4歳で29名、5歳で23名。そして、広域でございますが、9か所に広域委託いたします。その中で、まず0歳児が6名、そして1歳児が7名、2歳児が16名、3歳児が14名、4歳児が8名、そして5歳児が7名、合計58名。これが来年度、23年度の今現在の申込数でございます。

そして、もうひとつ、昨年から最低基準の見直しの中で、今までは1歳児が5対1という割合でございましたが、昨年から6対1ということで、斑鳩町もそれと同じような形で保育士の配置をしております。今年度、今の各年齢別で保育士を配置していったら、年度当初でございますが、あわ保育園で27名の保育士、そして、たつた保育園では18名の保育士で保育所運営をしていきたいと考えております。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 トータルはわかりましたけれども、これ、各年齢ごとに保育士を何人ずつでトータルで27名になるのかということも併せてちょっと教えていただけますか。

○嶋田委員長 清水福祉課参事。

○清水福祉課参事 失礼しました。まず、園別でまた申し上げさせていただきたいと思えます。あわが0歳児が3名、1歳児が5名、そして2歳児が6名、3歳児があわは50名子どもおりますから2クラスになります、その中で4名。そして4歳児が2名、5歳児が2名。これは、国の最低基準という形ではり付けをさせていただきました。そして、

あとは一時保育が1名、そして朝の長時間、朝午前中半日、半日で0.5保育士を配置しますので、それが0.5掛ける2の1名。そして、あと延長保育、延長保育が朝11時から晩の8時までそれを1名配置します。そして、あと主任と園長という形で先ほどの人数になります。

そして、たつたでございませうが、0歳児が先ほど申しましたように1名でございませうので、今のところ1名。そして1歳児が3名、2歳児が4名、3歳、4歳、5歳がそれぞれ2名。それと早朝保育の中の0.5掛ける2で1名。そして、延長保育で1名。そして、主任と園長という形で先ほどの人数ということで配置をさせていただきます。

以上でございませう。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 こうして見てみると、やっぱりあわの保育園がかなり人数がいらっしやって、小さい子どもさんも多いのでね、あわの保育園の部屋の配分なんかも、これ大分ご苦労していただいているんじゃないかなという心配です。施設の心配と、それとまさしく1歳児が変更になったがために、本来、今までやったら5人に1人やったら、本来6名おるところが、これそこへのっかってしまっ、1歳児30人いうたら5名になっていると。ドンピシャにそこが当たってしまっているんですけどもね、ちょっと残念なことに。そういうところにつきましては、小さい子どもさんというのは、目を離すと、もう1歳児は結構走ったりもできますので、しかも、部屋の確保が十分できていなくて、狭いスペースになりますと、けがということも起こりやすくなってくるというようなこともありますのでね、これにつきましては、十分に気をつけて保育所の運営をやっていっていただきたいというふうに思っておりますけど、現場の状況としてはどうでしょうか。部屋の、あわなんか、きちっと大体これ部屋とれてますか。

○嶋田委員長 小城町長。

○小城町長 今、里川委員おっしゃるように、この定員が160人というひとつの定員がありますから、皆さん方、そういう中でお受けしているという状況から、部屋は現実にもう数が足らんということは事実です。しかし、それをうまく運用していかなかったら、かれこれ180何人という方々を収容できない。ふつうやったら160人で一応はやっぱり定員を守っていくのが原則ですけども、やはり皆さん方のご要望が多い中で、もうそれは、あわ保育園の現状は保育園だけじゃなしに、その周辺の自治会からも非常に苦情がございませう。朝はやっぱり車が多い。送迎される。そうしたら、時速20キロぐ

らいを守ってほしいけれども、30キロも40キロもだから、もう大変やと。コースそのものをまっすぐいってもらって行ったらいいけども、ぐるっと回られる方もあるし、そういうことのいろいろな苦情もございますから、昨今はそういう状況で、180何人というのは、ちょっと異常な感じもいたしますから、やっぱりいずれ何らかの方策を考えてなかったら、事故が起こってしまったら、それはもう大変ですから。やっぱりそこらのこともやっぱり皆様方を受けてやろうという、皆様のご要望ですからね、清水参事も非常に苦しんでいると思います。しかし、そういうことで、お互いに協力をして、保育行政についてもあるいは幼児教育の関係についても、やっぱり全力を振り絞ってやっていくことが我々に課せられた使命だと思いますので、ただ事故のないことを我々は願っているということでございます。

○嶋田委員長 里川委員。

○里川委員 幼保一元化の問題なんかもね、過疎になってきて、施設はあるねんけど、預ける子どもが少なくなってきたから、一体化してやろうかという、そもそもそんな話からスタートしたような問題ですが。有り難いことに斑鳩町は幼稚園も結構いっぱいですし、保育園ももうこんな状態なんですね。ですから、子育て支援も力入れてますし、これからもまだまだ若い人たちに来てもらいたい。そして、斑鳩町では子どもさんたちには健やかに育ってほしいと、そういう観点から十分いろんなことを検討しながら、そして、社会情勢がこういう情勢です。ご主人の仕事がうまくいかない。私も働かなければならない、そういうご家庭もどんどんふえてきていると思います。ですから、少子化だといえども、保育所に預けたいと言われるご家庭もふえてきているというような現状があるかと思えます。そういう現状を認識していただきまして、またこの辺のところ、十分検討していただいて、事故のないように。そして、また、今、町長も参事も苦勞しているやろうと。町長も多分、苦慮しておられると思うんです。預けたいという方、全部預かりたいと思うんですね。要望にこたえていきたいと思っておられると思うんですけどね、本当にそういう点では施設的には厳しいものがあるなというふうに感じてはおります。でも、その反面、人的なものにつきましては、できるだけ余裕を持って、人的な確保をしていただきまして、子どもたちの安全を守るように頑張っていたらというふうに思っておりますので、よろしく願いしておきたいと思えます。

○嶋田委員長 ほかにございせんか。 木田委員。

○木田委員 73ページの4目の子ども手当支給事業費ということで、6億1,996万

4,000円の中の20節の扶助費ということで6億1,451万8,000円、子ども手当支給事業ということになってますねんけども。これ0歳から3歳までが2万円、それで3歳から中学修了までの子どもに対して1万3,000円とかいうことになっておりますけども、この人数的には、その0から3歳とか、あとその3歳から中学修了、それはどのぐらいの何で計算してはりますのかな。

○嶋田委員長 清水福祉課参事。

○清水福祉課参事 まず、人数でございますが、3歳未満、これは2万円の支給と今のところなっております。その人数が、児童数でございますが794名。そして、小学校修了前が2,086名。そして、中学校修了前が727名の合計3,607名がこの扶助費の内訳でございます。

○嶋田委員長 よろしいですか。ほかにございせんか。 伴委員。

○伴委員 もうひとつお願いします。63ページのこれもちょうど真ん中ぐらいですねんけど、障害者移動入浴サービス事業委託料なんですけど、これがどんと倍ぐらいに、倍近くなってるんですけど、これはなぜそうなっているんでしょうか。

○嶋田委員長 佐藤福祉課長。

○佐藤福祉課長 前年度と比較してふえた理由でございますけども、定期的に使用を希望される方がおられるようになりましたので、その関係でふえております。今までは、このサービスを利用される方が非常に少なかったわけですけども、そういうところで、例えば週1回とか週2回とか定期的にされると、その割合、当初は少ない金額だったので非常に多くなったような形になっておりますけども、結果的に利用回数が増えたということでございます。定期的に使用される方がおられて、利用回数がふえたということです。

○嶋田委員長 ほかにございせんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○嶋田委員長 これをもって第3款民生費についての審査を終わります。

次に、第4款衛生費について説明を求めます。 栗本環境対策課長。

○栗本環境対策課長 それでは、第4款衛生費につきましてご説明を申し上げます。

失礼して、座ってご説明をさせていただきます。

第4款衛生費の予算につきましては、本年度は9億3,738万7,000円の計上となっております、前年度予算額と比較いたしまして、6,394万円、7.3%の増となっております。

まず74ページから75ページ、第1項保健衛生費、第1目保健衛生総務費であります。本年度予算額は1億4,780万円を計上しております。前年度予算額と比較いたしまして、374万8,000円、2.6%の増となっております。予算の財源内訳は、県支出金で10万円、その他で80万3,000円、一般財源で1億4,689万7,000円となっております。職員及び臨時職員の人件費関係として1億1,577万1,000円、王寺周辺広域休日応急診療施設組合交付金及び分担金として1,634万4,000円、西和衛生試験センター組合分担金として1,330万8,000円の計上が主なものであります。

次に75ページから76ページ、第2目感染症予防費についてであります。本年度予算額は9,472万4,000円を計上しております。前年度予算額と比較いたしまして4,294万3,000円、82.9%の増となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金で1,538万1,000円、一般財源で7,934万3,000円となっております。

○嶋田委員長 暫時休憩いたします。

(午後3時40分 休憩)

(午後3時42分 再開)

○嶋田委員長 再開いたします。

○栗本環境対策課長 子どもから高齢者まで、感染症の発生とまん延及び罹患後の重症化を予防するために、各種予防接種を実施してまいります。日本脳炎予防接種であります。平成17年度より積極的な接種勧奨を差し控えていたところではありますが、平成22年4月から3歳児に対する積極的勧奨が再開され、平成23年度は、3歳から7歳6か月未満児と追加免疫として9歳から13歳未満児に日本脳炎予防接種を実施するものであり、委託料として1,264万2,000円を、また、平成23年2月から接種費用の全額助成を実施しておりますヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン及び子宮頸がんワクチン予防接種を引き続き実施することとしており、委託料といたしまして3,417万8,000円を計上しております。これらの予防接種の実施が感染症予防費の増額になった主な要因であります。さらに高齢者では、70歳以上を対象に肺炎球菌ワクチン接種費用の一部助成と季節性インフルエンザ予防接種については、引き続き無料で実施し、健康の保持・増進に努めてまいりたいと考えております。感染症予防対策としては、日常生活の中で基本的なうがい・手洗いの励行はもとより、抵抗力をつけるため

の栄養・休養のとり方などの正しい知識の普及・啓発を行うとともに、感染症に対する情報提供や迅速な対応を引き続き行ってまいります。

次に76ページから77ページ、第3目母子衛生費であります。本年度予算額は2,822万3,000円を計上しております。前年度予算額と比較いたしまして330万4,000円、13.3%の増となっております。予算の財源内訳は、国庫支出金40万7,000円、県支出金718万7,000円、あわせまして759万4,000円。その他で9,000円、一般財源で2,062万円となっております。だれもが安心して、子どもを産み育てることができるまちづくりをめざすため、安心して産み育てる「いかるがっ子プラン（母子保健計画）」に基づき、妊娠期・産褥期・育児期それぞれのライフステージに応じた事業に取り組んでまいります。妊娠期においては、妊婦の定期的な健康管理を行うため、妊婦一般健康診査の公費負担を引き続き15回助成し、自らの健康管理に留意し、安心して出産に臨むことができるよう支援してまいりたいと考えております。また、出産後1～2か月の産褥期においては、初めての出産や産後の体調の変化などにより母親の不安が最も強くなりやすいことから、専門性の高い助産師による訪問指導を充実させ、育児不安の軽減に努めてまいります。現在、新生児訪問を実施しておりますが、さらに生後5か月から1才6か月児のいる家庭を訪問する乳幼児訪問を実施いたします。乳児期から幼児期にかけては、子どもの成長が著しい時期であり、親の不安も大きくなるため、この時期に乳幼児のいる家庭を訪問し、親子の心身の状況や養育環境を把握し、必要に応じて指導を行うことにより、子育ての孤立化を防ぐとともに育児不安の軽減を図ります。そのための費用として、助産師等の報償費67万7,000円を予算計上しております。親が孤立することなく、楽しく子育てができるよう、より一層、子育て支援の充実を努めてまいります。また、歯の衛生についても、歯科衛生士による歯の指導の機会をふやし、子どもの健やかな成長・発達を支えていくために健康教育の充実を努めてまいります。

次に77ページから78ページ、第4目健康増進事業費であります。本年度予算額は、3,771万7,000円を計上しております。前年度予算額と比較して832万4,000円、28.3%の増となっております。予算の財源内訳は、県支出金で124万4,000円、その他で582万円、一般財源で3,065万3,000円となっております。「健康いかるが21計画」を「健康増進計画」に改称し、「食べる」「動く」「たばこ」「健康管理」の4分野に、今回新たに「休養とこころの健康」の分野を追加し、5

つの分野で取り組んでまいります。また、町民の生涯にわたる健全な心身を培い、豊かな人間性を育み、食育を総合的に推進するため、「斑鳩町食育推進計画」を策定いたします。また新たに、心の健康に関する講演会や精神相談員等による心の健康相談を実施するため、相談員の謝礼等を予算計上しております。また、健康づくりを効果的に推進するため、保健センターを活動拠点として活動できる保健センターサポーターを養成するための講座を開催し、養成後はサポーターと保健センターが協働し、保健事業等を実施してまいります。

さらに、奈良県の健康づくりモデル事業を実施いたします。この事業は、奈良県が生活習慣の改善等により日本一の健康長寿の県を目指すために、モデル地区を決め、地域ぐるみの健康づくりの取り組みを県内の市町村に広める目的で実施するものです。町医師会・町歯科医師会・栄養士会・中学校・PTA等と連携しながら、親子で健康づくりを考える機会として、骨密度測定を行うとともに、骨粗しょう症予防のための栄養や運動などの生活習慣等を家族で考えるきっかけづくりを保健センターから発信し、地域ぐるみの健康づくりに取り組んでまいります。

脳ドック健診の助成であります。平成23年度から助成人数を現行の現行の100人から150人に拡充して実施してまいります。生活習慣病についてであります。特定健康診査等の受診者に対しまして、内臓脂肪型肥満の要因となる生活習慣を改善するため、特定保健指導等の生活習慣病の予防対策に努めてまいりたいと考えております。全国的に罹患率が増加傾向にある「がん」につきましては、生活習慣病のひとつでもありますことから、今後さらに各種がん検診の受診率の向上に取り組んでまいります。

また、平成21年度から女性特有の「乳がん・子宮がん」検診の節目の年齢に対しまして、無料クーポン券・検診手帳を送付するなど、検診の受診勧奨を行うとともに、がんに対する正しい知識と情報の提供をするなど疾病予防に努めてまいりました。今年度も引き続き、女性特有の「乳がん・子宮がん」検診の節目の対象者に対しまして、無料クーポン券を発行し受診率の向上に努めてまいります。さらに集団検診で胃がん検診と肺がん検診がセット検診できるように受診体制を整え、受診率向上に努めてまいります。住民一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」という健康に対する意識の向上を図り、より良い生活習慣の獲得に向けた支援ができるよう、保健事業を進めてまいります。

次に78ページ、第5目狂犬病予防費であります。本年度予算額は、39万9,000円を計上しております。前年度予算額と比較いたしまして、1万4,000円、3.

4%の減となっております。予算の財源内訳は、すべてその他であります。狂犬病予防法に定められております狂犬病の予防注射につきまして、本年度におきましても奈良県獣医師会と連携しながら、集合注射の実施を計画しており、昨年同様、飼い主の利便性を図るため、会場を従来から1か所増加し、5か所で実施する予定であります。

また、依然として犬の散歩時などのフン未処理や放し飼いなど、ペットの飼い主のモラルが問われておりますが、狂犬病予防集合注射会場をはじめ、さまざまな機会を通じて、マナー向上の啓発に努めてまいります。

次に78ページから79ページ、第6目火葬場費であります。本年度予算額は2,905万4,000円を計上しており、前年度予算額と比較いたしまして131万円、4.3%の減であります。予算の財源内訳といたしましては、その他で361万円、一般財源で2,544万4,000円となっております。斑鳩町営火葬場につきましては、平成9年3月の稼動開始後、定期的な保守点検を行いながら、今日まで適切な運営を行っており、本年度におきましても、火葬業務委託料として799万1,000円、火葬炉設備保守点検委託料として69万3,000円を計上するなどし、引き続き、良好な稼動、運営を心がけてまいりますとともに、周辺地域の環境整備にも努めてまいります。

次に79ページから80ページ、第7目環境対策費であります。本年度予算額は309万3,000円を計上しており、前年度予算額と比較いたしまして87万8,000円、39.6%の増であります。本年度、ISO14001の更新審査を受審することにしており、その受審手数料計上が主な増額の理由であります。予算の財源内訳といたしましては、国庫支出金が25万円、その他が105万1,000円、一般財源が179万2,000円であります。まず、環境問題への正しい認識と地球環境負荷を低減させるための生活様式のあり方を考え、行動を起こすきっかけづくりとして、子どもを対象とした環境教室3教室と成人の方を対象とした地球温暖化防止関連の体験型講習会を1講座開催する計画にしております。そのために必要な講師謝金、地球温暖化防止事業委託料等を計上しております。また、地域での環境保全活動のリーダーとなる環境保全推進委員につきましても、まもなく第7期委員の任期満了を迎えることから、新たに各自治会に1名ずつ第8期環境保全推進委員を配置し、地域レベルでの環境保全活動を支援するとともに、環境保全推進委員研修会・連絡会議などを開催し、人材の育成に努めることとしております。なお、これまで腕章により環境保全推進委員が活動中であることを住民の方々に周知しておりましたが、さらに広く住民の方々に環境保全推進委員の活動

を知っていただくため、本年度では、活動中着用いただく安全ベストを貸与することとし、その購入に必要な予算を計上するとともに、円滑な活動を支援するため、活動助成金として、35万1,000円を計上しているところであります。

次に、行政自らの積極的な取り組みとして、事務事業が与える環境負荷の低減を図るISO14001環境マネジメントシステムの運用につきましては、ISO登録団体として、さらにシステムの運用を一層強化し、地球環境への負荷低減に努めるとともに、本年12月に行われます更新審査を受審し、4期目の登録を目指してまいりたいと考えており、更新審査手数料として62万9,000円を計上しているところであります。

次に80ページ、第2項清掃費、第1目清掃総務費であります。本年度の予算額は、953万3,000円を計上しており、前年度予算額と比較いたしまして713万2,000円、42.8%の減であります。職員の人件費の減少が主な減額の理由であります。予算の財源内訳といたしましては、その他で211万8,000円、一般財源で741万5,000円であります。「自分たちの住む町は自分たちで美しくする」をテーマに、いかるがの里クリーンキャンペーンとして、町内一斉清掃を実施するとともに、美化活動を通じて地域のつながりを深め、一体となって美化意識の向上を図ることを目的とした自治会内美化キャンペーンを本年度も実施することとしており、土砂等の処理手数料として193万1,000円を計上しているところであります。

次に80ページから84ページ、第2目塵芥処理費であります。本年度の予算額は、4億4,776万3,000円を計上しており、前年度予算額と比較いたしまして1,852万6,000円、4.3%の増であります。予算の財源内訳といたしましては、その他で8,698万2,000円、一般財源で3億6,078万1,000円であります。

稼働開始から約30年を経過しようとしている本町の焼却施設の老朽化、全国的な課題である最終処分場の残余容量の逼迫、ごみ焼却などによる地球温暖化といったごみ処理に関する課題を解決するためには、ごみの発生量そのものの減量が必要であり、このことから、本町は、ごみを出さない町、「ゼロ・ウェイスト」の町の実現を基本理念に掲げ、住民、事業者、行政が一体となった取り組みを進めることとしております。まず、住民の方々にごみ減量化、資源化の重要性、必要性を認識いただく意識啓発事業であります。また、「ゼロ・ウェイスト」の考え方を広く周知するため、本年度においてゼロ・ウェイストフェスティバルを開催し、講師謝礼等で27万円、会場設営業務委託料として24万円、リユース食器運營業務委託料4万5,000円などを計上しております。

また自ら出したごみがどこへ運ばれ、どのように処理されるのかを実際に確かめ、意識の向上を図っていただく「ごみのゆくえ探検ツアー」につきまして、従来の個人単位で申し込みいただく探検ツアーのほかに自治会単位で申し込みいただけるツアーも企画することとし、車輛借上料として33万6,000円を計上しているところであります。

次に、バイオマス利活用の推進であります。平成22年2月26日に国から公表されました「斑鳩町バイオマスタウン構想」を推進するため、平成23年3月に「斑鳩町バイオマス利活用推進協議会」を立ち上げ、今後は協議会を中心に循環型社会の構築を推進してまいることとしており、委員の報償費として、19万5,000円を計上しているところであります。

また、10月から分別収集を開始いたしました家庭木くず・草類をはじめとした剪定枝葉の堆肥化委託料として、1,672万円を計上するとともに、生ごみ分別収集モデル世帯も現行の500世帯から1,500世帯に拡充する計画にしており、堆肥化するための委託料として、546万7,000円を計上しているところであります。

次に、資源化、廃棄物の処理であります。ビン類・缶類の処理委託料330万8,000円、その他プラスチック類の処理委託料として、2,745万2,000円を計上するとともに、ごみ処理業務等委託料として、4,330万6,000円を計上しているところであります。

次に、ごみ減量化・資源化の推進に対します各種奨励事業であります。家庭生ごみ減量化の促進に関する奨励金として61万1,000円、資源物集団回収事業に対します奨励金として、869万3,000円を計上するとともに、レジ袋削減をはじめ、地球にやさしい生活のあり方を推進する「地球にやさしい生活推進協議会」、通称「エコるが」の運営補助金として、10万円を計上しております。

なお、当町の廃棄物中間処理施設であります斑鳩町衛生処理場につきましては、供用開始後、平成23年度末で30年を迎えようとしております。また、本年度は、地元周辺自治会との10年更新の交渉を進めていくこととなりますが、今日まで衛生処理場は補修を重ね、その延命に努めておりますものの、施設の状況、年数などを勘案いたしますと、今後10年間、適正な運営を維持していくことは非常に難しく、また新たな処理施設を建設するにも莫大な費用が必要となることから、本年度をもって衛生処理場での焼却処理は廃止し、平成24年度から委託処理に移行していくことといたしました。

そのため、廃棄物を積み替える仮設施設の建設の工事費、積み替えに必要な重機の購

入費、本施設建設の設計委託料など、計2,600万円を計上しているところであります。なお本年度1年間は焼却処理をしていく必要があります、必要な補修等を行いながら適切な維持管理及び良好な施設運営を行いますとともに、ダイオキシン類をはじめとする環境汚染に対します周辺住民の方々の不安の解消及び周辺地域の環境整備につきまして、進めることとしております。

次に84ページから86ページ、第3目し尿処理費であります。本年度予算額は1億3,908万1,000円を計上しており、前年度予算額と比較いたしまして532万7,000円、3.7%の減であります。予算の財源内訳といたしましては、国庫支出金256万8,000円、県支出金で同じく256万8,000円、あわせまして513万6,000円。その他で753万4,000円、一般財源で1億2,641万1,000円あります。本年度におきましても、鳩水園の設備機器の補修を計画的に進め、安全かつ良好な稼動に努め、当該施設の適切な維持管理並びに運営を行っていくこととしております。そのために必要な修繕料4,000万円、施設管理・運營業務委託料2,020万円を計上しております。

また、河川の水質汚濁防止を目的としております浄化槽設置者に対します助成につきましても、引き続き行うとともに、浄化槽設置者に対し、適正な維持管理が行われるよう、さまざまな機会を活用して、啓発に努めてまいりたいと考えております。

以上で、第4款衛生費の主な予算計上の説明とさせていただきます。何とぞ、よろしくご審議いただきますようお願いをいたします。

○嶋田委員長 説明が終わりました。暫時休憩いたします。

(午後4時25分 休憩)

(午後4時25分 再開)

○嶋田委員長 再開いたします。

これをもって本日の審査を終了いたします。

来週7日午前9時から本日の続きから引き続いて予算決算常任委員会を行いますので、定刻にご参集をお願いいたします。

本日はこれをもって散会いたします。

どうもご苦労さまでした。

(午後4時25分 散会)